

岡山県学校図書館研究集録

第 6 1 号

令和6年

——2024——

岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部
岡山県中学校教育研究会学校図書館部会
岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会
岡山県学校図書館協議会

発刊によせて

岡山県学校図書館協議会
会 長 森 田 保 志

各学校におかれましては、学校図書館の魅力増進や児童・生徒の読書活動の推進等に御尽力いただくとともに、本協議会の取組への御支援・御協力を賜り心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して1年が経ち、これまでの活動が戻ってきています。この新型コロナ禍では本協議会の活動も様々な制約を受けましたが、一方でこれまでの取組を立ち止まって見直すよい契機ともなりました。第45回岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会）を5年ぶりに対面方式で開催しましたが、隔年でオンライン実施としたことはその一例と言えます。また、今年度から読書感想画コンクールを休止しましたが、一方で多くの児童・生徒の応募を得て、今年も第70回岡山県読書感想文コンクールを実施することができました。この中から青少年読書感想文全国コンクール最優秀賞をはじめ多くの受賞者が出たことは本県の誇りとするところです。こうして効果的・効率的な運営のための見直しを行いながら活動できておりますのも、本協議会員の皆様の御理解・御協力の賜と重ねて感謝申し上げます。

さて、この度その活動記録として、「岡山県学校図書館集録61号」を発刊する運びとなりました。平成26年度までは、印刷製本してまとめていましたが、より多くの方に読んでいただくために、平成27年からはホームページに掲載し、公開させていただいております。

令和6年度は、令和2年(2020年)度から小学校で、令和3年(2021年)度から中学校で全面実施された新しい学習指導要領が、高等学校3年生まで完全実施された年でもあります。新しい学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が重視され、学校図書館は情報の収集・整理・活用を促進するための中核的な役割が求められています。ここでは書籍に加えて、デジタルコンテンツやデータベースなど多様な情報を提供することで、児童・生徒の探究心を刺激しています。特に「情報リテラシー」に関しては、教員と司書が連携しながら、児童・生徒が情報を批判的に分析し、自分の意見を形成できるような指導も行っています。そして何より児童・生徒が本と出会い、感動し、共有し、読書自体を楽しむ「読書活動」を通じて豊かな人間性を育んでいます。このように学校図書館の最大の魅力は「情報の宝庫」ということであり、今日の学校教育における学びの拠点となっています。本協議会員はもとより学校図書館に関わるすべての皆様には、引き続き学校図書館の充実のため御理解・御協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、この研究集録を発刊するにあたり、多大な御尽力・御協力をいただきました関係の皆様には厚くお礼申し上げ、巻頭の御挨拶といたします。

目 次

発刊によせて

令和6年度岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会）……………1-1 ～ 1-30

第70回青少年読書感想文岡山県コンクール……………2-1 ～ 2-2

優良図書研究部会 ……………3-1 ～ 3-9

指定図書選定委員会 ……………4-1

司書部会 ……………5-1 ～ 5-2

その他

- 1 令和6年度 岡山県学校図書館協議会 事業報告 …………… 6-1
- 2 令和6年度 岡山県学校図書館協議会 支部協議会事業報告 …………… 6-2-1 ～ 6-2-6
- 3 岡山県学校図書館協議会組織図 …………… 6-3
- 4 岡山県学校図書館協議会規約 …………… 6-4-1 ～ 6-4-2
- 5 岡山県学校図書館協議会司書部会会則 …………… 6-5
- 6 岡山県学校図書館協議会74年の歩み（略年表）…………… 6-6-1 ～ 6-6-6

第45回岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会） 要項

主催 岡山県学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会司書部会

共催 倉敷市学校図書館協議会・岡山県学校図書館協議会備中支部協議会

後援 岡山県教育委員会・倉敷市教育委員会

1 日時 令和6年7月25日（木） 10:00～15:45

2 会場 ライフパーク倉敷（岡山県倉敷市福田町古新田 940） TEL 086-454-0011

3 主題 主体的に学ぶ力、生きる力を育む学校図書館

4 日程

9:30	10:00	10:50	11:00	12:15	13:30	15:30	15:45
受付	開会 総会 行事	休憩	全体会	昼食 移動	分科会		他会場見学

5 総会

- (1) 議長選出
- (2) 2023(R5)年度活動報告（理事会活動報告）
- (3) 2023(R5)年度決算報告
- (4) 2023(R5)年度監査報告
- (5) 質疑応答・承認
- (6) 2024(R6)年度役員選出（案）
- (7) 2024(R6)年度活動方針・事業計画（案）
- (8) 2024(R6)年度予算（案）
- (9) 質疑応答・承認
- (10) 情勢報告（地区活動報告・実態調査報告）
- (11) 議長解任

6 全体会

■ 水エビブリオバトルの紹介 ～対面実施とオンライン実施～

発表者 岡山県立倉敷中央高等学校 坂口 桂蔵

■ 子どもたちの本とのであいを広げるきっかけ作り

発表者 読書推進アイデア班 倉敷市立帯江小学校 三田 晶子

助言者 大塚 崇史（岡山県教育庁高校教育課）

7 分科会

A分科会

■ 児童生徒・教員に役立つ授業支援

発表者 授業支援班 倉敷市立東陽中学校 大林 完吾

■ 授業などで使用する本の選書

発表者 選書班 倉敷市立呉妹小学校 山口 薫

■ 改訂スタッフマニュアルを元にした司書業務のあり方

発表者 マニュアル班 倉敷市立富田小学校 藤井 佳菜

助言者 小野 桂 （倉敷市立万寿小学校）

B分科会

■ 読書の魅力を伝える取り組み ～絵本でやってみた!～

発表者 学校図書館ガイドライン班 倉敷市立赤崎小学校 滝 美恵

■ 学校図書館で使える資料の作成と実践

発表者 資料作成班 倉敷市立茶屋町小学校 田中 雅奈子

倉敷市立旭丘小学校 野津 香織

助言者 畠中 美和 （倉敷市教育委員会指導課）

C分科会

■ 主体的に利活用できる学校図書館 ～環境整備の視点から～

発表者 環境整備班 倉敷市立西阿知小学校 管波 佐苗

倉敷市立庄中学校 金井 弥生

■ 読書活動の活性化につながる日常業務

発表者 日常業務活用班 倉敷市立水島中学校 大上 智美

助言者 中川 博之 （倉敷市立東陽中学校）

【全体会】

助言者	大塚 崇史	(岡山県教育庁高校教育課指導班指導主事(副参事))
司会者	大西 覚子	(倉敷市立上成小学校司書)
記録者	世良 真弓	(倉敷市立真備陵南高等学校司書)
	鈴木 和子	(岡山県立高梁高等学校司書)
①「水工ビブリオバトルの紹介 ～対面実施とオンライン実施～」		
発表者	坂口 桂蔵	(岡山県立倉敷中央高等学校司書)
②「子どもたちの本とのであいを広げるきっかけ作り」(読書推進アイデア班)		
発表者	三田 晶子	(倉敷市立帯江小学校司書)

【A分科会】

助言者	小野 桂	(倉敷市立万寿小学校副校長)
司会者	仁科 弥永子	(倉敷市立玉島東中学校司書)
記録者	岡本 佳也子	(倉敷市立老松小学校司書)
①「児童生徒・教員に役立つ授業支援」(授業支援班)		
発表者	大林 完吾	(倉敷市立東陽中学校司書)
②「授業などで使用する本の選書」(選書班)		
発表者	山口 薫	(倉敷市立呉妹小学校司書)
③「改訂スタッフマニュアルを元にした司書業務のあり方」(マニュアル班)		
発表者	藤井 佳菜	(倉敷市立富田小学校司書)

【B分科会】

助言者	畠中 美和	(倉敷市教育委員会指導課〇〇)
司会者	藤井 典子	(倉敷市立緑丘小学校司書)
記録者	藤原 絵里子	(倉敷市立穂井田小学校司書)
①「読書の魅力を伝える取り組み～絵本でやってみた!～」(学校図書館ガイドライン班)		
発表者	滝 美恵	(倉敷市立赤崎小学校司書)
②「学校図書館で使える資料の作成と実践」(資料作成班)		
発表者	田中 雅奈子	(倉敷市立茶屋町小学校司書)
	野津 香織	(倉敷市立旭丘小学校司書)

【C分科会】

助言者	中川 博之	(倉敷市立東陽中学校校長)
司会者	奈古屋 宏美	(倉敷市立長尾小学校司書)
記録者	齋藤 幸子	(倉敷市立福田中学校司書)
①「主体的に利活用できる学校図書館 ～環境整備の視点から～」(環境整備班)		
発表者	管波 佐苗	(倉敷市立西阿知小学校司書)
	金井 弥生	(倉敷市立庄中学校司書)
②「読書活動の活性化につながる日常業務 ～倉敷市推薦図書のクイズ作成とその活用～」(日常業務活用班)		
発表者	大上 智美	(倉敷市立水島中学校司書)

I 事例発表

発表① 水工ビブリオバトルの紹介

～対面実施とオンライン実施～

岡山県立倉敷中央高等学校 坂口 桂蔵

1 学校の紹介

水島工業高校は、「水工」の愛称で地域に親しまれている県立の工業高校で、機械科・電気科・工業化学科・建築科・情報技術科の5つの学科に、22クラス・およそ830人の生徒が学んでいます。

令和4年度に学校創立60周年を迎え、校訓「誠実は人間最高の善である」のもと、生徒たちは毎日の学習、資格取得の勉強、部活動などに一生懸命取り組んでいます。

2 水工ビブリオバトルの取組紹介

ビブリオバトルは、谷口忠大さんにより考案され、2013年に文春新書から発行された谷口さんの著書『ビブリオバトル』の中で、「ビブリオバトルは本の紹介ゲームであり、書評を媒介としたコミュニケーションの場づくり手法」だと述べられています。私は生徒に対していつも「おすすめ本の紹介合戦」だと説明していました。

水工ビブリオバトルの目的は、生徒に「本に親しみを持ってもらう」とことと「話すこと」「聞くこと」のスキルを高めることの2つです。

読書に対して堅苦しいイメージを持ちがちな生徒に、面白い・楽しいと思える一冊を見つけてもらい、読書に対するハードルを下げ、いつでも気軽に本に手が伸びるようになってほしいという思いと、「話すこと」「聞くこと」のスキルは社会人になってからも求められるもので、水工ビブリオバトルを通してそのスキルを高める良い訓練になればいいという思いが込められています。

水工ビブリオバトルは、図書委員会活動の一つとして、平成26年度から年2回、6月と11月の第3木曜日の放課後に開催され、図書委員自らが運営をするという形で取り組んでいます。学校の年間スケジュールにも組み込んでもらっています。令和3～4年度はコロナ禍のため、Google Meet を活用してオンラインで実施しました。全体

の司会進行などは図書委員長が行い、バトルはグループに分かれて実施しました。この取組の目的を達成するために次のことを工夫しました。

①「本に親しみを持ってもらう」

本に触れる機会を増やすために、生徒に水工図書館で3冊本を借りてもらい、その中からおすすめ本1冊を選んでもらいました。興味関心の幅を広げるために、普段は手にしない本の棚も見るように促し、積極的に本の購入希望を出してもらうよう声掛けを行いました。

さらに参加者を5～6人のグループに分けてバトルを実施することにより、全員が必ず自分のおすすめ本を紹介できるようにしました。

バトル終了後には、グループのリーダーが結果を記録し、全員のおすすめ本を共有しました。

②「話すこと」「聞くこと」のスキルを高める

スキルを高めるために、「バトルカード」を作成し活用しました。「バトルカード」には、本の内容やあらすじ、おすすめポイント、その本を知ったいきさつ、どんな人に読んでもらいたいかななどを記入し、これにより内容を整理して伝えたいことをきちんと話せるよう準備します。ただし、ビブリオバトルを楽しく活発に行うことが重要なので、カードの作成自体が目的とならないように、あくまでも話すための準備であって、きちんとした文章で書く必要はないと説明しました。また、カードを見ながら話すことは禁止としていましたが、他の人の紹介を聞く際のメモとして使用することは許可していました。

水工ビブリオバトルの事前準備は、イベントの2か月前から行いました。6月実施の場合は、まず図書課長と司書が中心となって素案を作成、4月上旬の図書課会議を経て修正を行い、4月中旬の図書委員会で図書委員に詳しく説明します。5月末までにおすすめ本を1冊決定してもらおうという流れで行い、5月下旬にはイベントの告

知を、図書館通信を通じて Gmail で生徒・教職員に配信しました。開催要項、観戦希望フォーム、Google Meet への招待も同様に Gmail で配信しました。

令和3年度のオンラインによるビブリオバトル初開催の際には、本番でスムーズに行くよう、事前説明会と予行練習を行いました。ビデオ会議へのアクセスや操作方法の確認、画面のチェックなども行い、チャンプ本投票フォームも Gmail でイベント参加生徒に配信しました。

当日はメイン会場とサブ会場3カ所に分かれて、Google Meet でバトルを実施、終了後には Google Forms で一番読みたいと思った本を紹介した人への投票を行いました。結果は当日参加者に伝えるとともに、後日発行する図書館通信でも報告しました。

令和4年度に実施した際には、チャンプ本を紹介した生徒にインタビューを行い、その記事を図書館報に掲載しています。

3 取組後の感想

- ・ビブリオバトルを盛り上げるためには、生徒自身がイベントを楽しむことが重要である。そのためにも「無駄な労力を求めない」こと、「イベント感を高める」ことが大切だ。
- ・事前におすすめ本の投稿をしてもらうなど、生徒の負担となるようなことを課したこともあった。参加のハードルを上げないためにも廃止したい。
- ・バトルカードはあくまでも自分流に活用してもらえばよい。生徒に面倒だと感じさせず、ビブリオバトルそのものを楽しむためである。
- ・観戦者を増やして緊張感を高め、イベント感を出すのもいい方法だ。

4 対面実施とオンライン実施の比較

- ・対面実施の場合、会場が1カ所で、少人数のグループに分かれて行うため、臨場感・ライブ感を味わうことができる。
- ・オンライン実施の場合、会場を複数に分散して行うため、会場管理、機器管理が大変。発表者も一人でクロームブックの画面に向かって話すため、やりにくい面もあったようだ。
- ・対面実施を基本とし、場合によりオンラインを含めた別の方法や取組を検討するのがよいと感じた。

5 オンラインを活用した他校の取組事例

オンラインを活用した図書委員会活動として、高校備中地区の2校の事例をご紹介します。

①県立倉敷古城池高校の事例

文化祭行事の一環として図書委員会主催のクイズ大会を行っています。以前は体育館ステージを使用して開催していましたが、コロナ禍となってからは、Google Meet を活用したオンライン形式で開催しています。

本部となる放送室から、Google Meet により全クラスに問題を配信し、生徒は各教室で相談しながら解答します。教室のスクリーンには問題の配信画面と一緒に他のクラスの解答の様子も映されています。オンライン開催を始めた当初は、Google Meet の接続がうまくいかず、途中で配信が止まってしまうなどのトラブルもありましたが、回を重ねるごとに図書委員のスキルもアップし、スムーズな進行ができるようになってきました。

また、皆が楽しくクイズに取り組めるように毎年新しい工夫も盛り込んでいます。体育館で開催していた時はクイズ大会には一部の生徒だけが参加していましたが、オンライン開催になり、全校生徒が一度に楽しめる企画となりました。

②県立高梁高校の事例

毎年1回、図書委員が中心となって取り組む「読書LHR」を開催しています。

事前に紹介したい本を選び、Google Forms に書名やおすすめポイントなどを入力しておき、当日はクラスごとに1人1分で本の紹介をしてもらいます。発表後に「気になった本、読んでみたくなった本」を Google Forms から投票し、クラス代表（ベストプレゼン）を決定。後日クラス代表の生徒による本の紹介を動画で撮影して Google Classroom で全校に配信しました。「普段自分では手に取らないような分野の本でも読んでみたくなった」、「他学年の人のすすめる本が知れてよかった」などの生徒の感想がありました。

その他にも、毎年先生方におすすめ本を紹介してもらい、冊子にまとめて配布する活動も行っています。令和5年度の文化祭では、図書委員が中心となり「先生のおすすめ本紹介動画」を作製し公開しました。文化祭後もこの動画は図書館内や職員室前のモニターで流し、とても好評でした。読書LHRで紹介された本や先生方がすすめてくれた本は、動画にすることでより興味関心が高まりやすく、生徒の貸出にもつながっています。

発表② 子どもたちの 本とのであいを広げる きっかけ作り

倉敷市立帯江小学校 三田 晶子

1 はじめに

私たちは、子供たちが本とのであいを広げるために、まず本を手にとってもらうことから始まると考えた。そのための「しかけづくり」や「アプローチの方法」を検討しながら様々な取り組みを行い、特別な行事期間に限らず、年間を通じて子どもたちが日常的に本との出会いにつながられるような実践をしてきた。

2 実践報告

① 読書標語

本を読みたい、図書館に立ち寄ってみたいと思えるような標語を掲示することにより、図書館への関心をひくきっかけ作りを行った。

② 読書ビンゴ

子どもたちがいろいろなジャンルの本に触れることを目的として、アイデアを出し合った。「分類ビンゴ」は、低中高学年や支援学級のレベルにあわせてマス目に入れる数字を変えて作成した。「本の名前ビンゴ」は、タイトルの最初の文字をマスに入れ低学年用にわかりやすく工夫したり、国語の教科書に掲載されている本の名前を入れた。また、担任と協力し「昔話ビンゴ」を作成し、授業に取り入れた学校もあった。このようにビンゴの内容を工夫することで、読んだことのない本に目をむけさせるきっかけとなった。そして授業と関連させることで活用の幅も広がった。

③ しりとり読書

本のタイトルを元にしりとり形式で本を選び、記録する取り組みである。子どもたちはしりとりが完成できるような本を選ぶのに夢中になって選んでいた。中高学年向けは、読書量に合わせてポイント制を導入し、本の種類に応じてポイント数を変えたりしながらゲーム感覚で本を選ぶことができていた。

④ 本のおたのしみ袋

その時の気分に合わせて選んでもらうお楽しみ袋を作成した。また新聞紙で手作りのバッグを作ったり、中身のヒントを示すブックカバーで覆ったりして興味をもたせた。そうしたことにより、自分たちが読んで面白かった本やおすすめの本をお楽しみ袋に入れる、児童発信の通年貸出しお楽しみ袋コーナーができた学校もあり、図書館活動につながった。

⑤ おすすめの本の木

葉っぱの形に切った用紙に、本のタイトルとおすすめポイントを記入し、幹の周りに貼り付けた。子どもたちは関心をもって取り組み、子どもたち同士が本を紹介し合う場となった。さらに紹介されている本を探す様子も見受けられることができた。

⑥ 先生のおすすめの本

普段関りのある先生から紹介される本に関心が高く、普段手に取らないような本も興味を持って読まれる機会となった。

⑦ 本のリレー『どうぞのいす』

香山美子さんの絵本『どうぞのいす』を参考にした本のリレー形式の取り組みをおこなった。

いすには、読んでほしい本が紹介用紙とともに置いてあり、借りることができる。借りた人は次の人に自分が紹介したい本を紹介用紙と共に置く。この取り組みは児童の間で好評で、子どもたちの情報交換の場、ロコミの場になり、読みたい気持ちに直接つながる取り組みであったと感じた。また普段来館していなかった児童も図書館に足を向けるきっかけになった。

⑧ 今日は何の日

その日が何の記念日に設定されているかを紹介し、その記念日にちなんだ本の紹介や読み聞かせをした。

中学校の実践では、記念日とリンクした部活動関連の本を展示することで教職員への利用にもつながった。小学校では、紹介する際に読み聞かせやクイズを入れたり、記念日に関連した本を読むことでプラス1冊券がもらえたりするなどひと工夫した。普段は意識されることがない本でも児童が手にする様子が見られた。ただ、多くの記念日を紹介しようとして子どもたちが興味をもつ前に次の展示になってしまうという反省点も上がった。そのことを元に、1か月の「今日は何の日カレンダー」を作成した学校もあった。それまで司書が作成していたが、図書委員会の児童自らタブレットを使い情報収集し、パソコンを活用して掲示物を作成していくようになった。このことから新たな探究心や読書の幅を広げるきっかけづくりになっていると感じ取ることができた。

⑨ 本のフローチャート

子どもたちが質問に答えていくと読みたくなりそのような本が次々と見つかる本選びの際のツールである。チャート作成にあたっては、偕成社から出版されている秋山朋恵さん編集の『つぎ、なにをよむ?』に掲載されているフローチャートを参考にさせていただいた。

最初は、「友だちの本」、「推理の本」のテーマに絞り、小学校の低中高学年用の3種類と中学校用のフローチャートを作成した。ひな形に沿い各校独自のフローチャートを作成し掲示したり、図書館だよりに掲載し紹介したところ、興味津々で本を手にとっていたという嬉しい報告があがった。

中学校では多くの生徒の目に留まるように、館外の掲示板に大きく張り出した。生徒に人気の「怖い本」のチャートを、図書館までの壁面に掲示したところ、どちらも来館者の増加につながった。

小学校の図書館授業では、質問に応じたフローチャートでたどりついたテーマの本を選ぶという試みをしたところ、本を選ぶ楽しそうな姿を見ることができた。また、本選びに慣れていない子どもも、積極的に自分で本を選ぶことができた。

これらの実践を通して、フローチャートは、読書に親しみをもちにくい子どもたちや読みたい本を探すことが苦手な子どもたちへのアシストツールとしてとても有効であると感じた。しかし一方で特に小学校では、フローチャートのやり方が理解しづらい児童がいることが分かった。そこでスタンプを押すこ

とで、フローチャートの流れが理解しやすくなった。更に質問に答えてたどり着いた先で、複数の本を選択できる「分類フローチャート」を新たに作成した。これにより多くの選択肢から本を選べるようになった。この「分類フローチャート」を館内に掲示しておくことで、スタンプカードに参加していない子どもたちも新たなジャンルに興味を持つようになった。

「分類フローチャート」は、教員からも共感を得て、国語の授業に取り入れられ、図書館活動の成功と考えられた。

授業では、上級生に本の紹介インタビューを行い、友だち同士で本を紹介し合い、本の世界を広げた。分類フローチャートをきっかけに、特定の分野の本しか手に取らなかった子どもたちが、新たな分野の本にチャレンジするようになった。この授業は学年全体に広まり、全学年で本を紹介し合う授業に繋がった。これからも子どもたちが自発的に本を選び、読書の楽しさを感じられるように、フローチャートの工夫と、サポートを続けて行ければと考えている。



3 おわりに

私たちは研究を通して、今まで子どもたちが気づきにくかった分野の本にも目を向け、本に親しみをもちにくい子どもたちが本を手取るきっかけといった「きっかけ作り」につながる実践をしてきた。そして「きっかけ」を作った今、どのように子どもたちの興味関心を持続させていくのが次の課題だと考えている。そのためには、ICTの活用を考え、レファレンス対応の向上とあわせ、子どもたちとの関係づくりも大切になってくるのではないかと思う。今後もアイデアを出し合いながら様々な実践を継続し、子どもたちが「読書は楽しい」と思えるような研修を深めていきたいと考えている。

II 質疑応答

《読書推進アイデア班の実践について》

Q：本のフローチャートを使った後どのくらいの貸出につながったか。また具体的な児童・生徒からの反応はどうだったか。

A：フローチャート後の反応について

とびらのフローチャートは1年生から5年生で行われたが、6年生は行事の都合で実施できなかった。1年生と4年生はクラスの約半分の児童が扉に用意していた本を借り、それ以外の学年の児童はほぼ全員が一冊は扉の本から選んでいた。しかし、1年生は、とびらのチャート自体を行うのがちょっと難しくとても時間がかかった。中高学年は新しい試みを楽しみ、友だちと話し合いながら、フローチャートを楽しんでいたようだった。

Q：イベントでは景品を手に入れたために本を借りるだけで読まずに返す児童もいるが、その点についての対応はどのようにしているのか。

A：どの学校にもそのような児童はいると考え、図書館に足を運ぶきっかけを作ることが重要だと考えている。

イベントで渡す景品はほとんどプラス券である。子どもたちが読みたいタイミングで使えるようにしている。

景品欲しさで本を借りる子どもたちには、読書への意欲が伸びるタイミングや読書に対する興味が湧いてくるタイミングを待ちながら、長期的に見守る姿勢を持っている。

しりとり読書やビンゴカードなどのイベントが本を選ぶ際のヒントとなり、子どもたちの心に残ることを期待している。

III 助言

倉敷中央高校の坂口さん、倉敷市立帯江小学校の三田さんを含む読書推進アイデア班の皆さんから、充実した実践発表があった。発表を通じて浮かび上がった共通のキーワードは、児童・生徒たちと本との出会いをどのようにコーディネートするかという問いである。この課題を解決するために、以下の手立てが強調されている。

・子どもたちの主体的な活動の促進

・本を手にとること・読書することの日常化（継続化）
・各教科等の学びを中心とした学校生活全体との接続性
これらのキーワードが発表の随所に散りばめられている。

水島工業高校のビブリオバトルの実践では、谷口忠大さんの「書評を媒介としたコミュニケーションの場づくり手法」という言葉が引用されていたが、この「場づくり」というところが重要である。ビブリオバトルの開催を通じて、「本に親しみをもってもらふこと」と『話すこと』と『聞くこと』のスキルを高める」という二つの目標を、生徒の図書委員の主体的な活動を中心に、「大きなコミュニケーションの場」をつくっていくことで達成しようとしている。

準備段階では、生徒に学校の図書館で三冊、普段手にしないような本の棚を探すよう指示したり、図書の購入希望を奨励したりしている。このプロセスを通じて、生徒の読書に対する関心の幅を広げ、日常的に本を手にとる習慣を促進している。ビブリオバトル当日に向けた、この準備のプロセス自体が、生徒が本と向き合い、関心を広げる重要なステップとなっている。

また「話すこと」と「聞くこと」のスキルを高めるために、バトルカードが効果的に設計されていた。これらのカードは、本番で話すシナリオを作るのではなく、頭の中の内容やポイントを言語化して整理するためのものであり、ビブリオバトルを「コミュニケーションの場」として活性化させる役割を果たしている。

コロナ禍で二年間オンライン開催となったことで、参集開催とオンライン開催のそれぞれの特徴や利点・弱点が明らかになった。ビブリオバトルは参集開催の方が伝わりやすい面があるが、高梁高校の実践事例のようにClassroomで全校配信することで、他学年の生徒が勧める本を知る機会が増え、「コミュニケーションの場」がさらに広がる可能性がある。ICTやオンラインの有効活用を含め、今後の取り組みがブラッシュアップされていくことを期待している。

読書推進アイデア班の実践は、「しかけづくり」や「アプローチの方法」に焦点を当てた価値ある実践研究であった。どの学校でも実践しやすい取り組みを工夫し、学校や生徒の実態に合わせて応用できるようにしている。また、イベント的なものではなく、子どもたちが年間を通じて日常的に、本を手にとることを繋げることに焦点を当てている。

例えば、「読書ビンゴ」や「本のフローチャート」など

の取り組みを国語の授業で活用し、担任の先生や学年と連携することで、子どもたちの日常の学びや生活と結び付けている工夫は、子どもたちと本との出会いを日常的で持続的なものになっている。

そしてそれは、「本のおたのしみ袋」で児童生徒発信のお楽しみ袋が登場したり、「今日は何の日？」で、記念日をきっかけとしながら自らの読書の幅や、学びを広げていく児童が出てくるなど、司書や教員のアプローチが図書委員会を中心に子どもたちの主体的な活動につながっていることから、本や読書との出会いが日常化していることが伺えた。

そうした中で「本のフローチャート」の実践は、子どもたちが自分の興味・関心と出会うきっかけを作り、自分で選んだ本との出会いを生み出す重要なアプローチである。これにより、子どもたちは「何を読めばいいか」「何を読みたいのか」「何を読む必要があるのか」を自分で考えていくことにつながるであろう。

発表者が挙げている、いかにして興味・関心を持続させるかという課題に対しては、「本のリレー」がヒントとなるだろう。子どもたちにとって、同世代の口コミは重要な情報源であり、大きな影響力を持つ。学校図書館の「情報センター」としての機能とは、単に多くのメディアが集まっているということではなく、そこに集まる「人」そのものが、「情報」としての価値を持っており、それを互いに共有できる、ということである。

司書や教員が読者として感動した本の情報は、子どもたちにとって大変有意義なものである。図書館に行けば、自分に関わりのある大人たちがどのように本と向き合っているかという情報が得られたり、ICTを活用することで、口コミや情報の拡散が効率的・効果的に行われる可能性がある。今後のさらなる研究や報告を期待している。

各発表は、子どもたちと本との日常的な出会いをどのようにコーディネートし、生涯にわたって持続させるかについて示唆に富んだ内容であった。重要なのは、「仕掛けづくり」や「アプローチの仕方」を共有しつつ、各地域や学校、個々の生徒に応じた出会いの場をどう作るかという点である。

午後からの分科会も含めて、参加者同士で対話し、その成果を持ち帰り、各校でそれぞれのアプローチに挑戦いただければ、本実践発表がより生きたものになるはずである。

子どもたちが主体的に本と出会い、学び、自らの人生を

生きる力を育むために、引き続き、御尽力いただきたい。

I 事例発表

発表① 児童生徒・教員に役立つ授業支援

倉敷市立東陽中学校 大林 完吾

1. 研究テーマ

新学習指導要領総則を踏まえた授業支援について検討し、実践する。それをもとに児童生徒・教員に役立つ授業支援について考える。

2. 研究内容

(1) 新学習指導要領総則を踏まえた授業支援について検討

私たちは、新学習指導要領総則に新しく加わった文言の実現に向けて授業支援をすることが「児童生徒・教員に役立つ授業支援」につながるのではないかと考えた。

そして、資料を読んで意見を出し合い、次の3つを柱にした授業支援について研究をすることにした。

- ・教員との協働・授業目標の確認。教員と司書、それぞれの専門性をいかした相談。振り返り。
- ・資料提供・授業目標に応じた資料提供のための資料収集。授業で利用しやすい環境の整備。
- ・司書自身のスキルアップ・授業や教科書の内容について研究。実践報告を通しての学び合い。

(2) 各分野のまとめ

①図書館利用分野

児童生徒がこの学習で得た知識をその場だけのものにせず、ずっと使えるようにするにはどうしたらよいか、実践を参考にしながら検討した。

小学校国語「本は友達」の時数は1時間だが、その内容全てを網羅するには時間が足りない。また、教科書では公共図書館や教育施設について触れている。しかし、それらが学区にあるなしで、児童の実態にも違いがあり、支援の内容には地域性も考慮に入れる必要があることも分かった。

以上のことから私たちは、1年間の学習を通して、児童生徒が教科書で取り上げられているスキルを身に付けて

いくことができればよいのではないかと考えた。

教員と相談しながら目標を設定し、児童生徒の発達段階や実態に応じた支援を継続的にしていくこと。その積み重ねが、児童生徒の力になっていくと考える。

②読書活動分野

児童生徒が読書活動を通して「読むことの楽しさ」に気づき、発達段階に応じた「読む力」を身につけ、「思いや考えを表現できる力」を育てるために司書ができる支援について検討してきた。

児童生徒が学習において「読書の楽しさ」に気づくには、作品の内容理解につながる資料や関連図書を読むことが有効である。また、児童生徒が「読む力」「表現する力」を身につけるためには、例えば図書の時間に司書が読み聞かせをした本に対して児童が感想を伝え合うという方法もある。このような日頃の積み重ねが、小中学校を通して「読む力」「表現する力」を身につける大切な支援であると言える。

その上で、授業目標や児童生徒の実態を踏まえた授業支援となると、同じ単位でも支援の内容が違ってくる。今回の実践報告で、児童生徒・教員にとって必要な支援を司書が把握することが、よりよい支援につながると改めて分かった。

また、学習内容をその場限りのものにしない取り組みも必要であることも分かった。例えば小学校の「本は友達」では、4年で「ノンフィクション」、5年で「作家の本」が取り上げられている。それに対し、館内掲示や展示コーナーなどの整備をする、作者の話をするなどの授業支援をしているが、これを日頃から行うことで、児童生徒の読書に対する興味関心も違ってくる。

小中学校を通して、児童生徒が読書についてどのようなことを学ぶかについても意識しながら、広い視野で授業支援を考えていきたい。

③調べ学習分野

調べ学習は児童生徒が主体性をもって取り組む学習法として、教育課程においても様々な教科で重要視されている。調べ学習の過程(①課題の設定②情報の収集③整理・分析④まとめ・表現)の、どの段階でどのような支援ができるのかを検討した。

今回の研修を通して、司書が調べ学習を支援する上で重要なポイントになるのが、「資料収集」であると再認識した。例えば、小学校3年生国語「ちいちゃんのかざおくり」の授業では、児童が戦争や戦時中の暮らしについて調べ学習をした。これに対し、司書は62冊の資料を準備したが、教諭と一緒に内容を確認し、28冊まで精査したものを資料提供した。

また、3年生の「戦争」の調べ学習では、新聞記事や雑誌、パンフレット、地域のHPなども利用することで幅広い資料を提供できた。小学校4年生総合「福祉」では、紙媒体だけでなく、点字版や点字タイプライターなど実物を用意したところ、児童に課題設定につながる興味関心を持たせることができた。その他の実践報告からも、実物や画像・動画音などの、五感を刺激するのも効果的であることを学んだ。

そして、調べ学習の過程の②過程に司書も積極的に参加したり、④の過程でアドバイスをしたりした実践が報告された。これは資料提供のみにとどまらない授業支援について検討する材料となった。

④中学校

中学校の図書館は小学校と比べて生徒・教員どちらも関わる時間が少ないのが現状だと思う。総合の時間を除いて、国語科以外で授業支援をすることが少なく、打ち合わせの時間が取れない、などの理由で司書からのアプローチに対し消極的な意見もある。そのため学校図書館の3つの機能のうち「読書センター」機能に比重が偏りがちになり、「学習センター」並びに「情報センター」機能についての役割がバランスよく担えているとは言えない。

そこで2023年度、中学校勤務の3名は班の研究テーマを踏まえつつ、現状を変えるべく、それぞれが取り組む課題を設定し実践を行った。

その結果から、以下のようにまとめることができた。

授業支援をするにあたっては、教員とのコミュニケーションが重要である。授業支援を広げていくためには、教員とのコミュニケーションを適切にはかり、支援のきっかけを作り、それを継続するためのアプローチの仕方を模索していくことが必要不可欠である。今回の実践において、そ

の方法は各校で異なっているが、そこで得られた実践の振り返りを共有することで多様なアプローチが可能になると考える。

3. 成果と課題

(1) 成果

- ・教員との協働・授業支援の相談をする際に、司書側も前もって年間計画や教科書の内容の確認をし、授業目標に合った資料の用意や授業支援の提案ができるようになった。
- ・資料提供・教員との相談や他校の実践報告から知った資料を通して、自身の選書の幅を広げ、次の実践にいかすことができた。
- ・司書自身のスキルアップ・研究から学んだことを、自校の実践にいかすことができた。

また、自校の実践報告に対する感想やアドバイスを受けて、授業支援の内容を改善することができた。

研修を通して得た新たな視点

- ・児童生徒の実態を踏まえた支援・教員と児童生徒の実態、それに対する必要な支援について相談し、資料提供など様々な準備を行えるようになった。

そして、それを丁寧に行うことで、司書も教員と共に「できた」「できるようになった」「分かった」という児童生徒の学びの成果も共有し、実感することができた。

- ・系統立てた支援・小学校から中学校へとつながる学びを意識した支援について考えられるようになった。これは、図書館利用、情報活用の面だけではない。1つの学年、1つの単元で終わらない、本を探すためのスキルにつながるものも日頃の積み重ねが必要だということに気づいた。

(2) 課題

課題としては、「教員との協働」があげられる。学校図書館を活用すること、司書が授業支援をすることで、どのような授業ができるのかを教員に知ってもらい、その上でしっかり話し合いをして、授業支援をしたい。

私たちは、今回の研修で得た新たな視点も加えた5つを授業支援の柱とし、更に研究を深めていく。

それが、児童生徒の深い学び、生きる力につながる。つまり、「児童生徒・教員に役立つ授業支援」だと考える。そして、この研究成果を教員とも共有し、よりよい授業支援につなげていきたい。

発表② 授業などで使用する本の選書

倉敷市立呉妹小学校 山口 薫

1. はじめに

児童・生徒が図書館を訪れ、本に興味を示してくれるように、学校図書館司書は日々様々な工夫をしている。GIGA スクール構想により、一人一台タブレットを持ち、学校も ICT 活用に積極的に取り組み、情報収集によく利用されている中で、学校図書館の必要性が低下し、「読書センター」だけに戻ってしまったという声も聞かれる。学校図書館は「情報センター」「学習センター」として、学習課題を解決するための資料を収集・提供している。楽しむだけではなく、「探究のための読書」もあること、それはアナログでもデジタルでも同じだという認識が必要である。調べたいことがあるときに、「図書館に行けば調べられる」「調べたいことが見つかる」という安心感が必要である。学習関連や学校行事、季節関連など様々な場面で資料提供をしているが、急に資料を求められたとき、時間がなく十分資料を検討できないまま提供することがある。依頼があったとき、すぐに適切な資料の紹介や用意ができるようにしたいという思いから、ブックリストを作成して内容を考えていくことにした。

2. 研修内容

①全員での取り組み

コロナ禍では、「SDGs」についてそれぞれ小学校・中学校に分かれ、自校で調べ学習などに使用した本をリストアップした。

②小学校の取り組み

小学校では、「**人権**」「**環境 (SDGs)**」「**職業**」「**防災**」のテーマを決めて、それぞれ本を選書し、持ち寄りリストを作成した。選定された本については、「**人権**」リストの本は絵本や物語などが多く選ばれた。「**環境**」リストの本は、水やごみ、リサイクルやプラスチック、温暖化(気候)などについて触れた本が多く選ばれた。「**職業**」リストの本は、現状に即したものであるかも注意して選書し

た。「**防災**」のリストの本は、天候や自然災害の説明や、災害時の対策が書かれた本、それに基づいたクイズ形式の本などが選ばれた。選書した本の活用例については、「**人権**」のリストの本は、主になかよし週間などの人権行事の期間に活用され、集会や朝の時間などで絵本の読み聞かせとして利用された本もあった。「**環境**」のリストの本は、SDGs について力を入れ取り上げられていたため、調べ学習などの学習面で活用された。「**職業**」のリストの本は、最近増えた職業「**ユーチューバー**」「**e スポーツプレイヤー**」や、「AI (人工知能) ができる・できない仕事」に触れた本が活用された。「**防災**」のリストの本は、自然災害のニュースが多かった夏の時期に利用貸し出しが増えた。特に水害について触れたものが活用された。身近に起きた災害から児童・生徒が興味を持ち、タイムリーな資料提供をすることで防災意識が高まったように感じた。作成したリストは、テーマごとの展示や読み聞かせ、本を購入するときの参考にもされた。特に、人権はどこの小学校でも取り組んでいるため、展示コーナーや資料提供に役立った。

③中学校の取り組み

中学校でも、テーマを決めそれに沿ったブックリストを作成した。具体的なテーマとしては「**自校で活用できる SDGs リスト**」や「**LGBTQ+に関するリスト**」などである。「LGBTQ+」というテーマについては、各校においてその対応を急速に迫られている現状から、性的マイノリティに関する予備知識のための資料や、ジェンダーレスな新しい制服デザインを決める際の参考資料として位置づけられるもの、学校で講演活動をされている当事者の本、生きづらさを抱える主人公の気持ち理解できる小説なども選書していった。ある中学校の取り組みとして、制服が変わることもあり、学校の行事として当事者の講演会や、職員の校内研修として、LGBTQ の支援団体メンバーの方々の講演や新年度に向

けて『性別違和生徒への対応について』の研修を図書館で行った。図書館では、LGBTQ+に関するリストの本をすべて購入し、展示し、貸し出しを行った。ブックトラックにLGBTQ+の本を手に取りやすいよう別置き、先生方も本を借りて研修を深めた。図書館が生徒だけではなく、先生方にも学習センターであり、情報センターであり、読書センターでもある、利用しやすい学校図書館になっている手ごたえを感じた。「**新一年生に読んでもらいたい本**」というテーマでは、新一年生が、図書の授業がない中学校の図書館に親しんでもらい、続けて利用してもらえることを考えて選書したブックリストを作成した。新一年生はこのブックリストを利用し、4月の図書館の展示コーナーを設置すると、朝読書の本としてたくさんの生徒に読まれた。ある中学校では、二年生の図書委員が、「新一年生に読んでもらいたい本」のコーナーから自分が読みたい本のPOPを作成し、全生徒の目の届く学校玄関の前に掲示した。朝読書が今年度は毎日行われるようになり、先生からも図書館で朝読書の本を借りるよう声掛けをしてもらえ、特に新一年生にしっかりと読み応えのある本が読まれているのは、ブックリストの成果である。

るよう選書していきたい。

3. 反省と今後の課題

班の人数が増えたためテーマを広く調べることできるようにと小学校と中学校に分けたが、範囲が広くなり、リストの内容をまとめるのに時間がかかってしまった。リストに載せる本も情報の新しさや、提供資料としてふさわしいものかどうかを確認しながら進めた。自校の予算には限りがあるので、リストに挙げた本やおすすめの新刊を中心に持ち寄り、実物を手に取りながら意見交換できたことは選書に役立った。小学校と中学校では求められる資料のテーマや難易度が違うこともあり、小・中で連携したリストの作成が今回はかなわなかったので今後の課題となった。選書班の研修では、毎回同じような作業の繰り返しだったが、漫然とした選書ではなく、何かいい資料がないかと意識するようになり、新しい資料を探す機会も増え、日々の業務に活かせる研修ができたと思う。

令和6年度は小学校の教科書の改訂もあり、ますます幅広い資料が求められる。学校図書館が「学習センター」として機能を果たすため、私たち選書班は、先生や児童・生徒をバックアップできるよう、常にアンテナを張り巡らせて情報を収集し、適切かつ的確な資料を渡せ

発表③ スタッフマニュアルの改訂

－司書業務の共通理解－

倉敷市立富田小学校 藤井 佳菜

1. はじめに

倉敷市の小中支援学校では雇用情勢の変化により新人司書の割合が増加している状況から、2001年度に作成した現行のマニュアルでは不十分であるという問題が出てきた。そこで、学校司書の日常業務において実質的な手助けとなるようなマニュアルの作成を目標にマニュアル班を立ち上げた。

2. 研修の流れ

2012年度には学校図書館システムが導入され作業内容が以前とは大きく異なるようになり、まずは学校図書館シスムの操作マニュアルと照らし合わせ更新する形で「スタッフマニュアル 2016 年 2 月」版を作成した。その後の研修では学校図書館システムの更新等に伴い修正を重ねていき、最終的に倉敷市教育委員会・ICT 推進課の確認後「スタッフマニュアル 2023 年 5 月」版を司書部会全体に配付した

年度	司書部会全体	マニュアル班
2001	『学校図書館運営の手引き』作成	
2012	学校図書館システム導入 『システム操作マニュアル』	
2014		研修開始
2015		『スタッフマニュアル 2016 年 2 月』
2017	『システム操作マニュアル』改訂	『スタッフマニュアル 2017 年 9 月 27 日』 アンケート調査
2018	学校図書館システム更新 『システム操作マニュアル』新版	
2019		『スタッフマニュアル 2020 年 2 月』 アンケート調査 『学校司書の職務内容について』アンケート調査
2022	『探調登録時の請求記号について』統一	『スタッフマニュアル 2022 年 9 月』 市教委に確認 システムに関する内容 ICT 推進課に確認 『図書原簿統一について』 アンケート実施 『スタッフマニュアル 2023 年 1 月』 市教委・ICT 推進課、確認終了
2023		『スタッフマニュアル 2023 年 5 月』 配布

改訂にあたっては、

1. 全校で必ず行う業務であること
2. 経験の浅い学校司書にわかりやすいものであること
3. 市教委や司書部会全体で指示や決定があった内容は載せること
4. 新たに提案する内容が出てきたときは、関係する部署や司書部会全体に確認すること

以上4点を業務の共通理解のための留意事項とした。

3. 「引継ぎチェックリスト」の作成

新しいマニュアル作りを進めながら一方で「引継ぎチェックリスト」も作成した。業務の共通理解を深める意味でもまた新人司書のためにも引継ぎは非常に大切であると考えたためである。小学校、中学校では業務内容が異なるため小・中の2種類を作成し、司書部会全体へと配付した。

4. 図書原簿の統一化に向けて

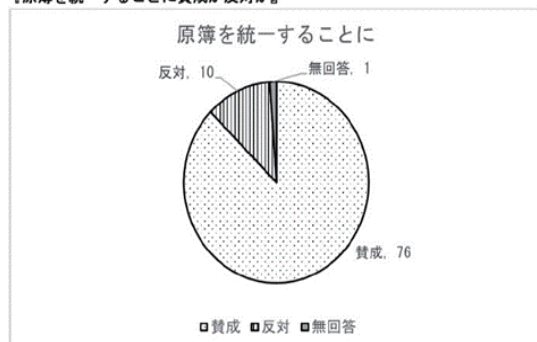
「スタッフマニュアル 2023 年」の作成と並行して図書原簿統一に向けての準備も行った。マニュアル作成中、図書原簿の書式が学校によって様々であったことが半明したためである。今後の業務を考える上で統一すべきだと考え、まず司書部会全体で原簿の統一に反対か賛成かのアンケートを行った。同時に、原簿を保存する形式を統一する必要性についても考え、各校でどのような形式の原簿を作成しているのかを設問として加えた。アンケート作成時点で学校図書館システムから作成できる図書原簿は、「資料台帳」と「受入リスト」があった。資料台帳はページ数やサイズなど資料の情報が記載されているもの。受入リストは受入先や予算区分などが記載されているものである。

アンケートでは、原簿の統一化に賛成多数。保存形式

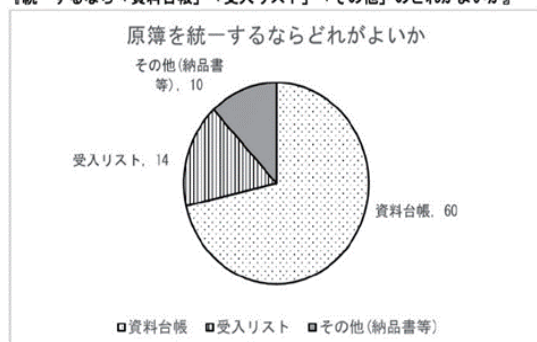
としては現行のシステムからの「資料台帳」の使用が多数の結果となった。また、回答の自由記述では、「ペーパーレス化の時代に紙媒体での原簿が必要なのか」という意見も複数あがっていた。

図書原簿統一化に向けてのアンケート結果

● 『原簿を統一することに賛成か反対か』



● 『統一するなら「資料台帳」・「受入リスト」・「その他」のどれがよいか』



これらの結果を踏まえた上で今後の統一化を進めていきたいと思う。

5. ディスカッション

今後の原簿統一化に向けて、分科会の参加者に各自自治体の原簿についての実態を伺うとともにディスカッション形式での意見交換を行った。その結果、以下のことが分かった。

- ・原簿の有無は比率で言うと、ある：なしが5：1ほどであった。
- ・図書館で使用しているシステムでは寄贈入力ができないため、寄贈本に関してデータ上の記録と紙媒体の原簿の両方を使用しているところもある。
- ・毎日図書館システムのバックアップがとられているため、原簿を必要としないところもあった。

(図書館システム自体が原簿の役割を担っているため)

原簿のデジタル化が進んでいるところもあれば、まだ紙媒体を使用しているところもあり、自治体によって取り扱いが様々であった。倉敷市の実態と照らし合

わせて参考にできそうなものは取り入れていきたい。

6. おわりに

マニュアル作りは業務に深く関わることだけに司書全体の関心も高く、責任を感じながら研修を行ってきた。

完成したマニュアルは班内で項目を分担し、一斉に取り組むことで共通理解のラインを探りながら完成させたものである。班員にとっても日常の業務を見直すとても良い機会になった。今後も倉敷市学校司書が不安なく業務が行えるように基礎となるマニュアルの整備を進めていきたいと思う。

II 質疑応答

授業支援班の発表について

Q. 成果「児童生徒の実態を踏まえた支援」の「児童生徒の実態を踏まえた授業支援を丁寧に行うことで、司書も教員と共に児童生徒の『できた』『できるようになった』『分かった』という学びの成果も共有し、実感することができた。」ことについて、具体的に聞きたい。

A. 授業支援の流れに沿って説明する。

①教員と授業支援の内容について相談する

この段階で、児童生徒に付けさせたい力について相談する。児童生徒の活動の流れ、どの場面でどのような支援をすればよいか考える。司書はそれをもとにして資料などの準備を行う。

②授業支援をする。

教員から授業の様子を聞く、また、司書も授業に参加することにより、児童生徒が必要としている支援とは何かを見極め、それに対応する資料などをさらに準備する。

※この①②が「丁寧に支援を行う」につながる。

③授業後に教員と振り返りを行う。

②での児童生徒の様子、成果物を踏まえ、教員と振り返りを行う。その中で「児童生徒が以前はできなかったことが、この資料を使って、この支援を通じて、できるようになった」ということについても話し合う。

これが、「司書も教員と共に児童生徒の学びの成果も共有し、実感することができた。」につながると考える。

Q. 成果「系統立てた支援」とはどういうことか。

A. 私たちの研究のベースになった光村図書の国語の教科書（小学校 令和2年度版・中学校 令和3年度版）によると、「図書館利用」、「情報活用」、「課題の見つけ方」「調べ方」を学年ごとに段階を追って学ぶようになっている。

また「読書活動」の内容を見ると、小学校の「本の紹介文を書く（またはスピーチをする）」、「ポップを作成する」、「ブックトークをする」などの活動を中学校でも行うようになっている。比べてみると、中学校の方が小学校より活動内容に深まりがある。

このことから、1つの学年1つの単元の学習で終わりではなく、「この単元で身に付けたことを、上の学年ではどのような形で活用するのか」についても意識した授業支援が大切であることが分かる。

これが児童生徒の学びの「系統立てた支援」の必要性につながると考える。

選書班の発表について

Q. ブックリストを自校でも活用したいので見たい。

A. 展示コーナーに置いている。

マニュアル班の発表について

Q. 図書原簿の現状に関しては、各自治体に確認してみるのはどうか。

A. 本日いただいた貴重なご意見を基にこれからもすすめていきたい。

III 助言

マニュアル班について。司書は一人職のため勤務形態の違いなどから仕事での難しさを抱えている。この難しさを克服するためのスタッフマニュアルの改訂、司書業務の共通理解という発表だったのではないかな。発足から今日まで司書業務の見える化、一般化をしてスタッフマニュアルの修正・更新を積み上げて、働きやすさの追求をしていることが伝わった。

司書同士で支える形を構築し、チームとして継続した取り組みを行い、盤石なベースをこれからも整え続けていきたい。どの学校でも同じベース部分が整っていれば安心して業務を行うことができる。学校種別の引継ぎチェックリストの存在も有難い。新任者・転勤者がそのベースの上で自分のやりたいこと、自分だけの工夫が自由に表現できる。学校図書館はのびのびと仕事ができる環境を整えている。その一端が図書原簿の統一化として現れ、個人の疑問で留めることなく見える化し、共通理解を行っている。司書業界を支える立場として今後も活躍していただきたい。

選書班について。司書は、指導の上で先生に何が必要なのか、子どもにとって主体的に学べる本は何かを知っている。研修を重ね常に知識を更新し、学べる環境を整えていることが選書班の取り組みから伝わった。一人一台端末の出現、学校 ICT 環境整備に押されて学校図書館としての必要性が低下していると嘆いている司書がいるのではないかな？でも決してそんなことはない。依頼があれば、すぐに適切な資料の紹介がいつでもできる、いつでも出せる。自校だけでなく常に他校からの刺激を受けて作るブックリストは誰にとっても魅力的なもので、時代の変化・情報の更新に常に対応していく優れものである。それは活用時の連携の素早さにも直結している。私たち教員が司書に依頼をしてから手元に本が届くまでの

スピード感は、こうした日々の研修の成果の表れだと実感している。特に求められやすいテーマについて常に更新し続け、ブックリストが児童の学びに役立っていることがわかる。

中学校の実践例では先生方の探求のための読書を実現されている。また生徒の主体的な読書生活を拓く取り組みにもなっており、あとはこれをどう共有するかも見えてきた。この貴重な財産が広がればと思う。引き続き洗練された選書の取り組みを続けていただきたい。

今年度改訂された小学校の教科書では、読書活動との連携がとても強まっているを感じていないだろうか。何が求められているのか、何と教室を繋ぐことができるかを見て整えていただきたい。

例えば国語科4年では初の一冊のミステリー教材が登場した。今までになかった論理的に物語を読み、面白さを味わった後に、図書館にも楽しいミステリーの本がたくさんあると繋がる環境を整えていただきたい。他にも繋がっていく要素がたくさんある。

授業支援班について。そこで、「本は友達 図書館の達人になろう」では、内容は当然だが、実践報告の書式からわかるように、司書の立場からと教諭の立場からのそれぞれの思い、願いを出し合って共有した上での取り組みになっている。各学年始めの取り組みに得た新しい知識が、本に出合う喜びへと繋げていく。

「本は友達 作家で広げるわたしたちの読書」では読み比べをベン図で表し共通点についてキャッチコピー化がされている。教室国語の読書経験と一人一人の読書生活を繋ぐということの見える化を果たしていた。こうした取り組みが子どもたちの思考を整理し活動を支えていくことになるのではないかと考える。

「防災学習 安心・安全 みんなの町 真備」では学校が防災学習に柱を据えているのがポイントで、学校教育目標の具現化、カリキュラムマネジメントという学校や地域の願いを叶える核となるまで踏み込んだ実践となっている。学校図書館が軸になって児童の主体的な学びを支えている好事例である。生涯に渡り防災について考える大人を育てるという目標が子どもの姿に具現化して現れている。学校が何を大切にしているのかを具現化し、学校図書館では何を担えるかというものの見方として捉え直せば、この取り組みはどの学校でも実践できる。教育的効果をねらってどの学校も見習っていききたい。

「中学校の実践」は、図書館と教員の距離感、司書と

教員のコミュニケーション不足という大きな課題に向き合い、学校現場の抱える問題に風穴を開ける取り組みである。これは小学校でも同様で、教員との協働を図ることは授業支援班の最大の課題である。双方の専門性を発揮するため、間を繋ぐことができる司書教諭や管理職を中心にコミュニケーションを取りながら各教科等の年間計画の見直しを一緒に語る時間をもつことが必要ではないか。これからは、教諭に向けても発信していきたい。

では、図書館教育、国語科教育を通して育てたい子どもの姿とは、「文章を正しく読み取る力のある子ども」なのだろうか？

それもあるが「より豊かな読書生活を拓く人」ではないかと考える。豊かな読書生活を拓く人とは、進んで本を手に取り親しむ人、本を読む喜びを知っている人だと考える。本の世界を楽しむ、必要な情報を得る、新たな発見をする、そこに喜びを感じている子ども。ここにいる方は読書の良さを知っている方ばかりだと思うが、ICTが進化し続けるこの社会において本当に読書が必要なのか？と感じられることがあるのではないかと。

子どもの読書活動の推進に関する有識者会議では、早くからそのことに気付き検討に検討を重ねている。令和5年3月の段階では、ICTと読書では思考する段階で情報の扱い方が異なると述べられた。そして読書活動はICTでは困難な考えを形成し表現するなどの能力を育む上で欠かせないと明言している。よって読書活動をこれまで以上に推進しよう、社会全体で積極的にそのための環境整備を推進しようとまとめている。

読書活動の学校教育における位置づけの重要性は毎年実施される学力学習状況調査からも透けて見える。最近の傾向としては、問題のシチュエーションそのもので出題されるという特徴に現れている。

令和4年度の問題は「銀色の幻想」というファンタジー作品だった。この問題に対応するためには、視点人物・心内語・行動描写・暗示的表現・情景描写等に関わって読む力、また長文を落ち着いて読んで自分の考えをまとめるという力が求められた。

令和6年度の問題は、「オニグモじいさんの朝ごはん」でオムニバスの一作品で平易なものが取り上げられた。こちらの問題も全文を読み通して自分の考えを形成できなくてはならないというもの。問題自体はそれほど難しいものではなかったが、子どもが自ら本を選んで読み、友達と書いて交流するような経験を果たしてこれまでできてきたか？と問われているとも考えられる。

そしてもう一問、端末で読書記録を積み重ねて自分の足跡を振り返るという問題が出題された。最近、こうした活動を軽視しているのではないかという指摘と、手段は紙ではなく端末で残すという切り口が提案されたと言える。

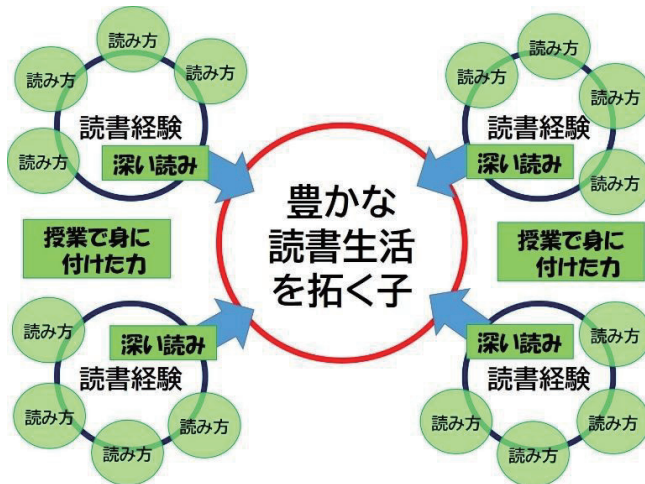
このことからみても読書に親しむ子どもの姿は、ICTの力や論理的思考力と同等もしくはそれ以上に求められていると言える。

国語科で読む力の授業は「読み味わう」と「表現の効果」を結びつけるところにある。これが言葉の力になってくる。読み味わった後、こんな表現に関わったので良く分かったというところまでいくことで力となる。しかし読むことが教室国語で完結してしまうという課題があり、読書にまで繋がっていなかった。もっと豊かな読書生活を拓くというところまで見通す必要がある。

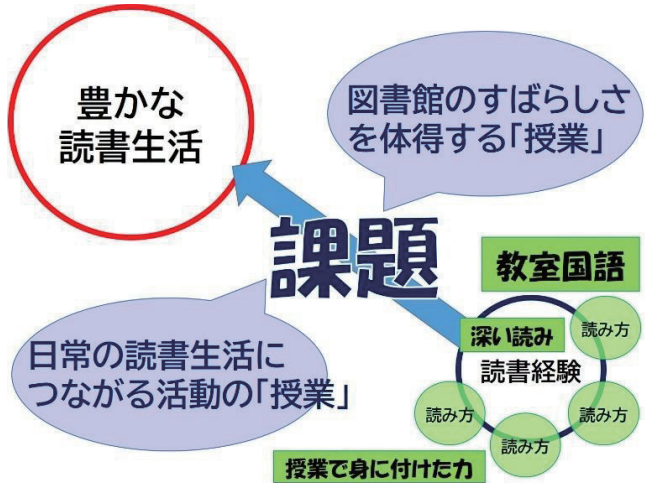
読書生活に繋がる活動を保障している授業が必要になる。司書が授業という時間の保障をして図書館にみんなを誘っていただきたい。すばらしい本がある工夫、帯・POP・ビブリオバトル・ブックトーク・読書会・本探しゲーム・読書記録などを具現化していくことが必要ではないか。読書は個で完結する行為だが、読書活動を学校で行うのは、他者と関わり読書の良さに気付くことができるところにあるのではないかな。

この課題の解決に向けて読書活動の充実と読書習慣に導くために各学校で活動の取り組みを進めていただきたい。

そのためにも図書館教育を生かし子どもの学びを充実させることができるのは教員と司書が協働するという姿勢であるということをしっかりと広めていきたい。司書も引き続き取組みをよろしくお願ひしたい。



「豊かな読書生活を拓く子」に育てるためには教室で多くの読書経験を友達と共に積み、深く読み読み味わう経験と、たくさんの言葉の力を身に付けることが必要であると考えます。



しかし、そこにはまだ距離があるところが課題である。そのために図書館の素晴らしさを体得する授業、日常の

I 事例発表

発表① 読書の魅力を伝える取り組み～絵本でやってみた～

倉敷市立赤崎小学校 滝 美恵

1 はじめに

学校図書館ガイドライン班は、平成28年に文部科学省より出された「学校図書館ガイドライン」の学校図書館におけるPDCAサイクルに着目して研修を進めてきた。学校現場ではIT機器が急速に整備され、学校教育も大きく変革期を迎えた。「新学習指導要領」では、学校図書館を使った授業が示されている。しかし図書館資料を活用した調べ学習よりインターネット・IT機器を活用した学習が増えている。学校図書館からの発信や司書の関わり方については悩むところだった。そこで、司書が関わりやすい「読書センター」としての働きを確認することにした。「読む力を育む」ために利用者を知り、本・読書の魅力を伝えることができる司書ならではの、情報発信や資料提供の方法について研修を進めた。

研究班の中では、「絵本」を活用している実践が多く報告されたので、「絵本」がもつ力に注目して、

- ・自校の蔵書であること
- ・絵本分類で登録されていること を条件に

- ① 教科・教材学習で活用できる絵本を、リスト「1～8分類の本を絵本で紹介」
- ② 持続可能な開発目標(SDGs)とつながる絵本を、リスト「SDGsとつながるえほん」にまとめた。

2 実践

(1)「1～8分類の本を絵本で紹介」の取り組みの紹介

○絵本の良さを活かした実践

A小学校は、国語科の単元で、説明文に苦手意識を持っている児童が多いことから、説明文の内容に関連した絵本の読み語りや本の紹介などを取り入れた。小学校6年生国語科教材「時計の時間と心の時間」で『ながーい5ふんみじかい5ふん』(リズ・ガートン・スキャンロン/文 光村教育図書)の読み語り、『絵ときゾウの時間とネズミの時間』(本川達雄/文 福音館書店)の紹介を行った。教員から「子どもたちにとって時間の概念をとらえ

るのに分かりやすかった。」との感想があった。

5年生国語科教材「言葉の意味が分かること」で、言葉遊びの絵本を5年生4クラスに資料提供した。教員から「自分も知らない本があり、児童とともに言葉を楽しんだ。」との感想があった。

B小学校では、3年生国語科教材「言葉であそぼう」で、だじゃれ・回文・つながりの詩の絵本の紹介をした。

4年生国語科教材「もしものときにそなえよう」で『ゆずちゃん』(肥田美代子/作 ポプラ社)『きみはぼうさいたいし』(にかいとしひろ/原作 金の星社)『はしれ、上へ! つなみてんでんこ』(指田和/文 ポプラ社)の読み語りをした。

4年生図画工作科で、彫刻刀の使い方や彫り方の指導に合わせて、木版画絵本の世界観を紹介した。『カムイチカプ』(藤村久和/文 絵本塾出版)『しまふくろうとふゆのつき』(手島圭三郎/絵・文 偕成社)の読み語りをした。

○「絵本」リスト作成

教科・教材学習の導入や授業を広げ読書意欲を高めることに活用できる「絵本」を自校の蔵書から選書した。

そして、あえて1～8類の分類記号をつけていった。絵本を1～8分類に選書することで、児童に様々なテーマの絵本を紹介できた。リストには、学年・教科などのメモ欄を加えて、活用しやすくした。

分類を意識して選書することは、資料の内容を熟知した司書の力量が必要となった。また、絵本に対する視点の違いなど、新たな発見もあった。司書の視野が広がり、選書・購入の参考になった。

(2)「SDGsとつながるえほん」の取り組みの紹介

○リストの作成

図書館は時代の流れに関心をもち、時代に沿った内容の本を提示できるようにする必要があると思い、話題と

なっている「SDG s」について、研修することにした。

そこで、低学年にもわかりやすい絵本ならではの利点を活かし目標別に選書を始めてみた。しかし、SDG s 17の目標を漠然としか理解していなかったのも、各自でSDG sについての本を読み、それぞれの目標の内容を理解することから始めた。選書した絵本を検討していくと、目標の捉え方の難しさを感じた。

特に目標5「ジェンダー平等を実現しよう」では、当初はLGBTQ関連の絵本を選んでみた。目標の主なターゲット内容を知り、女性問題を取り扱った内容の絵本を選書することとした。また、1冊の絵本が複数の目標に挙げられる場面も多々あったが、今回は内容に一番近いと思われる目標に挙げることにした。

リストを作成していく際には、本の内容がわかるように「キーワード」を付けた。そのキーワードも言葉を選ぶことが難しかった。

○リストをもとにした実践

A小学校は、毎月の図書館だよりでSDG sの目標を紹介し、SDG s関連の展示コーナーの設置をした。図書館だより11月号では、「世界トイレの日11月19日」に絡めて目標6「安全な水とトイレを世界中に」に、関係する本を紹介した。

B小学校は、同じテーマで、2年生と3年生には、『がまんだがまんどうんちっち』（梅田俊作/ほか作・絵 岩崎書店）の読み語りから『がっこうでトイレにいけるかな？』（村上八千世/文 ほるぷ出版）を紹介した。4年生から6年生には、『がまんだがまんどうんちっち』からブックトークをした。

C小学校は、4年生の社会科に関連して『すいどう』（百木一朗/さく 福音館書店）を紹介したことをきっかけに自校の蔵書で目標6のフローチャートを作成した。

D小学校は、3年生が総合的な学習でSDG sの基礎的な学習をしていることから、リスト「SDG sとつながるえほん」を基に、17の目標ごとの絵本を図書館の関連図書の展示コーナーに展示した。絵本ということで気軽に手に取られよく借りられた。展示している本が貸し出されても、リストを利用し同じ目標の本を、すぐに補充できた。そのことにより、多くの絵本利用につながった。

E小学校では、5年生の図書の時間に、北朝鮮のミサイル打ち上げのニュースについて話して、『いえ あるひせんそうが はじまった』（カテリナ・ティホゾーラ/作

汐文社）の読み語りをした。その後「日本にも、ほんの80年ほど前に戦争がありました」と『トットちゃんの15つぶのだいず』（黒柳徹子/原案 講談社）への読み語りにつなげ、目標16が「平和と公正」であることを知らせた。

また、4年生社会科の環境問題の学習をしている時には、目標14が「海の豊かさを守ろう」であることを知らせて『プラスチックのうみ』（ミシェル・ロード/作 小学館）と、『ヤマネコとアザラシちょうさだん』（五十嵐美和子/作・絵 PHP研究所）の読み語りをした。他の本にも関心をもってもらおうと、展示や紹介の工夫をした。

教員から、「関連図書の展示コーナーがあって児童はよく見ている、ありがたい。」との感想があった。

3 おわりに

「読書センター」としての働きを確認することから始めて、学校図書館の役割や機能、また「読む力を育む」ことを伝えていくために、司書ならではの情報発信や資料提供の方法などを探った。

「読む力を育む」ためのきっかけになればと、絵本に限定して二つのリストをまとめることができた。どちらのリストも、絵本分類で登録されている中からあえて選ぶということにこだわったのは、

- ・自校にあれば児童が手にとりやすい
- ・絵本ということで、どの学年にも理解しやすい

からである。

ただ、科学的な絵本の魅力も考慮するとリストに加えたところだったが、研究班内ではどの学校も各分類で配架していたので、今回はリストに挙げなかった。

今回の研修で、改めて絵本の魅力やたくさんの絵本を知る事ができた。そして、研究班で作成したリストを利用して、各校での授業実践や図書館活動に活かすことができ、絵本の選書・購入にもつながった。

今後ますますインターネット・IT機器を利用した学習が増えていったとしても、「読む力を育む」取り組みを進めていきたい。そして、これからも絵本が持つ力に注目して、図書館からの発信を続けていきたい。選書の目や、より効果的なアプローチの方法など、研修を深めるとともに、司書の専門性を私たち自身が意識し、高めていかなければと思っている。

発表② 学校図書館で使える資料の作成と実践

倉敷市立茶屋町小学校 田中雅奈子

倉敷市立旭丘小学校 野津 香織

1 はじめに

図書と利用者をつなげるための手立てについて、学校図書館の機能である「学習センター」として授業支援での資料紹介と提供をするとともに、「読書センター」として図書の時間を楽しく充実した時間にすることを目標とした研究を進めていった。授業支援からの取り組みは、国語単元の内容に沿った参考図書などを「単元の資料のプレゼン」で紹介するグループと、本により親しみをもってもらい取り組みとして、馴染みのある絵本などを題材とした「パネルシアター」で資料を紹介するグループに分かれ、実践を進めることにした。また、研究内容の相互理解を深めるため、お互いのグループで作成した資料やデータについては共有し合い、各校で実践、意見交換も行った。

2 実践

(1) 単元の資料のプレゼングループの研究

1年生「じどう車くらべ」、4年生「事実にもとづいて書かれた本を読もう」、6年生「森へ」、各学年別の「図書館利用」(光村図書出版の小学校国語教科書)の1単元につき、1校がプレゼンを作成。その後データを共有して自校の蔵書に沿ったプレゼンの内容に作り変えて、各校で実践を行う取り組みをした。4年生「事実にもとづいて書かれた本を読もう」のプレゼンは、まず、1校が作成したものを参考に自校の蔵書から考えて作成をした。

選書の時に、9分類(916)の蔵書の出版年が古いものが多く、冊数も少なかった。また、6類、7類では、話題になっていることでも、出版年が新しい児童書が少なく、7類はスポーツ、音楽など児童が、興味をもつ分野のどこに焦点を合わせるかなどで悩んだが、6分類は岡山県での出来事でもある『備中松山城 猫城主さんじゅーろー』(西松宏/作 ハート出版)を取り上げたり、7分類は4年生で福祉について学習するため『勇氣ある一歩で世界が変わる!車いすバスケット西宏昭』(光丘真理/文 新日本出版社)を取り上げたりした。また、最初は

分類だけに絞っていたが、絵本にもノンフィクションの内容がたくさんあり、絵が多く文章が短く児童に伝わりやすいので、追加して選書をした。その後、統一した蔵書内容でプレゼンを作成し各校で実践を行った。

〈工夫した点〉ノンフィクションの本が9分類で入っている図書が多い中、ドキュメンタリー、ルポルタージュ、伝記など、2分類〜7分類、絵本にもノンフィクションの本は配架されていることを伝えた。分類ごとに2冊紹介し、1冊ずつ表紙を見せながら児童の興味をひくような簡単な紹介をした。プレゼンが終わった後に、実際に紹介した本やその他のノンフィクションの本を手に取り本を読む時間をとった学校もある。児童は紹介された本の感想を伝え合いながら選り読んでいた。



〈実践シートより〉『わたしががんばったよ。急性骨髄性白血病をのりこえた女の子のお話。』(岩貞るみこ/文 講談社)や、『78円の命』(谷山千華/さく メタ・ブレーン)のプレゼンを見た児童からは「読みたいと思ったのは『わたしががんばったよ。』です。どうしてかという、夏休みに入院するからです。」「心に残ったのは『78円の命』です。僕は、命がとても大切だと思っているからです。」と、自身と身近に感じられた本に対しての感想が寄せられた。教員からも「興味をもちにくい分野だが、たくさん本を紹介してもらって読んでみようという動機づけになった。」と感想をもらった。

〈まとめ〉

今回のプレゼン作成と実践では、ノンフィクションと

いう少ない分類の蔵書選定の参考になった。また、普段手に取られない分類の本と児童をつなげていく取り組みとして続けていきたい。

（２）パネルシアターグループの研究

「図書の時間の充実」と「本をもっと身近に感じてもらいたい」という思いから、国語の単元に沿った作品を中心に教科書掲載作品やその作者の別の作品、昔話から候補を選んだ。著作権は倉敷市立の小・中学校間で相互貸借を行い、共同利用したいと申請をし、承諾を得た５作品を作成。作るパーツを選定し、画材や色を検討した後、担当を振り分けた。多人数で分担することで制作時間を短縮することができた。

倉敷市内の学校間で相互貸借をするために「借用申請書」と実演時間や対象学年、実演時の条件、保管者を掲載した「パネルシアター作品リスト」を作成し、倉敷市内全体で使える資料として市内司書と共有している。多くの司書や教員、児童に活用してもらいたい。

また、今まで作成したパネルシアターをどの単元や季節に利用できるかを利用計画表にまとめている。

令和5年度 パネルシアター利用計画(国語科単元)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
1年			あいうえおであそぼう 「アイウエオ」				くじらぐも / 中川李枝子「ぐりとぐら」		むかしはなしをよもう 「ねずみのずもう」	
2年		いなばの白うさぎ 「さるじぞう」								
3年		言葉で遊ぼう 「これはジャックのたてたいえ」		はじめて知ったことを知らせよう 「うしはどこでも「モ〜」」						

パネルシアター作品紹介

①『ぐりとぐら』（中川李枝子/さく 福音館書店）

〈工夫した点〉かごに切り込みを入れてどんぐりやくりを入れられるようにし、鍋のふたをかぶせる時にかすてらをふたの裏に隠すことで、ふたを開けた時にかすてらが出てくるようにした。

〈実践シートより〉児童は仕掛けに驚いていて、ボンと手をたたくところでは、一緒になってやっていたり、歌のところでは自然と手拍子がおこったりした。教員からは、「お話の中にとってもよく引き込まれていて、仕掛けや話にもよく反応しており、知っているお話の中でもパネルシアターにすることでずっと楽しく見ていた。」と感想があった。

②『ねずみのずもう』（いもとようこ/文 金の星社）

〈工夫した点〉組み合っているねずみの絵と、ねずみが投げとばされる絵の両面仕様としたことで、何度もひっくり返してずもうがとれるようにした。土俵をクリップでパネルの上につけ、使わない時は後ろ側へめくことで、取り外す手間も省け、家の中や土俵上の場面が更に良くわかるようにした。

〈実践シートより〉教員からは、「絵人形がシンプルで良い。動いてずもうをとるので面白かった。1年生にぴったりの昔話を楽しめた。」と感想があった。

③『さるじぞう』（いもとようこ/文 金の星社）

〈工夫した点〉絵人形を絵本の1.5倍の大きさで作成。

〈実践シートより〉「えっさ ほいさ！」の掛け声に、体を揺らして一緒に掛け声をかけてくれる児童が多くおり、歌の所では簡単に曲を付けると、2度目の歌の所で、一緒に口ずさむ姿も見られて盛り上がった。教員からは「絵本よりも大きくて迫力があって、児童がよりスムーズにお話の世界に入り込むことができていた。」と感想があった。

④『都道府県のかたちを絵でおぼえる本』（造事務所/編 実務教育出版）

今まで作成した作品は低学年向けが多いことから、実演の対象を中・高学年に絞って、候補の本を持ち寄った。

「お話ではないものも目先が変わって面白い。」と、作成を決定。

〈工夫した点〉絵人形をはる時の向きや角度がわかるように、絵人形の裏面には県名を記入した。ネルの布に地方の境界線だけを描いた白地図を準備して、絵人形をはるガイドにし、演じる際の参考になるよう、各県のヒントを三つずつあげてヒント集を作成。アイディアしだいでさまざまな演じ方ができるようにした。

〈実践シートより〉児童は、ちょうど都道府県の勉強をしていたので興味をもって参加してくれていた。今後、国語科に限らず、社会科やレクリエーションなどで活用していきたい。教員からは、「ヒントがなくても『〇〇県はどこでしょう？』でも楽しめたと思う。」と感想があった。

⑤『かにのしょうばい』（新美南吉/作 鈴木出版）

4年生国語教材の「ごんぎつね」学習後に、同じ作者の別作品ということで紹介した。

〈実践シートより〉児童は、かにがたくさん出た場面から最後のオチまでを面白そうに聞いており、実演後はかにの絵人形を細部まで見て持っているくしの色が違うこ

とを見つかったり、数を数えたりしていた。教員からは、「新美南吉さんのお話は、昔の言葉が出てきて難しいものもあるが、このお話はわかりやすく楽しかった。児童も次はどうなるかと引き込まれていた。かにかの子や孫が次々と出てくる場面では思わず笑っていた。懐かしさを感じ、ほっとする本の中の世界を、今後も大切にしていきたい。」と感想があった。

3 おわりに

これからも二つのグループで情報を共有し、互いに協力しながら、学校図書館を活性化し、授業に活かせる資料作成を研修していきたい。

II 質疑応答

Q 時間がないなか、教員との連携はいつしているか？

A 打ち合わせは、お互いの時間がとれる放課後にプレゼンを行い、たい内容を伝えて、次の図書の時間に行った。

Q プレゼンに使った本はどの学校にもあるのか？ない場合は差し替えて行ったのか。

A 最初は、各学校の資料でそれぞれが作成をしたが、ノンフィクションという分野の、少ない蔵書でプレゼンを行うことが難しいとの反省が出たので本を持ち寄り、児童が興味関心をもち勉強の役に立つか、出版年が比較的新しい本、指定図書など各校に揃っている本も選対象とした。自校にない本は購入し各校で揃えてプレゼンを作成した。

Q 水に関するフローチャートに載っている本で、中学生にも難しいと思える本もある。難易度はどのように決めたのか、今後の参考に聞かせてほしい。

A 小学生でもこのような内容の本を読んでもほしいという気持ちとブックトークなどで紹介をして手に取ってほしいという気持ちで選んだ。また、自校ではこんな本があるのだが、他校ではどうだろうかという議論のきっかけとなる一石を投じる思いで選書をした。

Q (司会より参加者の方へ) 5年ぶりの対面式の大会で、いろいろな地区から参加している。本日の感想や、研修・実践の参考になる本があれば教えてほしい。

A (教員の立場から) 絵本に分類がついていると、児童が、目的をもって本を探す時に見つけやすく、学習の広がりにもなると関心をもって聞いた。

A 自然科学のノンフィクションを2冊紹介。『ウンコロジ入門』(伊沢正名/著 偕成社) 大変理にかなった本でインパクトのある表紙でもある。飾っていると、児童のくいつきがよい。

『自然を再生させたイエローストーンのオオカミたち』(キャサリン・バー/文 ジェニ・デズモンド/絵 永峯涼/訳 化学同人) 絵が大きくかつきれいなので文字を読むことが苦手な児童にも絵を見て楽しんでもらえる。

III 助言

令和6年1月に岡山県教育庁生涯学習課が出した「令和5年度子どもの読書環境に関する実態調査の結果について」の、不読率に注目した。1か月全く読書をしていない小学生は8.9%、中学生が25.7%、高校生は51%だった。令和4年度の調査では、いずれの校種も全国の不読率より低かったが、令和5年度はどの校種も全国の不読率より高くなり、本を読まない児童・生徒の割合が増えていた。

「1か月間全く本を読んでいない」と回答した児童・生徒に、読んでいない理由を質問すると、小学生の1番多い理由は、「読みたいものがない。」2番目は、「他にしたいことがある。」であった。中学生・高校生も同じ理由から不読率の増加につながっていた。

このような本を読まない理由に対して、学校ができることは、

- ・「読みたい！」と思えるような本と出会わせること
- ・読書の楽しさが実感できるようにすること
- ・読む時間を確保すること

が考えられる。特に、「読みたくなるような本」や「読書の楽しさ」については、司書の専門的な知識や技能が必要不可欠だ。令和4年3月に出版された文部科学省委託調査「子供の読書活動の推進等に関する調査研究調査分析報告書」の「学校図書館整備の相関チャート」にも、司書の専門的な知識及び技能で、蔵書構成の改善や向上、図書貸出状況の向上につながっていることが記されている。

「読書の魅力を伝える取り組み～絵本でやってみよう～」の取り組みは、「学校図書館整備の相関チャート」の「データベース化」や「授業での活用」に当たる。

児童が1人1台端末をもつようになり、調べ学習ではインターネットを使うことが増え、図書館の本の利用が減ってきているという声を聞く。しかし、小・中・高等学校の「学習指導要領」には、図書館を利用して学習するように記されている。校種による少しの違いはあるが「総則」の部分に「学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童の主体的・対話的で深い学びの

実現に向けた授業改善に生かすとともに、児童の自主的自発的な学習活動や読書活動を充実すること」と記されている。例をあげると、「総合的な学習の時間」など国語以外の複数の教科の欄に中学校でも高校でも『学校図書館の利用』が記されている。

実践の中には、図画工作科における絵本の紹介があった。リストをよく見てみると、算数科、生活科、道徳科や家庭科など、学習指導要領に学校図書館の活用について記載されていない教科でも、学習に役立ちそうな絵本や学習をきっかけにして読書活動へつなげられそうな絵本が何冊も載っていた。絵本のコーナーだけを見ても、児童・生徒と本をつなぐきっかけがたくさんある。児童・生徒が「読みたい！」と思える本との出会いの可能性がたくさん詰まっている。そのことを司書だけが知っているのでは、とてももったいない。

そこで、次のステップとして考えていきたいのは、作成したものを共有することだ。リストを他の教員たちに渡す、図書館で児童・生徒が自由に見られるようにしておくのもよいと思う。絵本の背表紙に、分類番号やSDGsの目標がわかるようにしておく、児童・生徒が自分で本を選ぶ時のヒントになる。図書館だよりで紹介された本も見つけやすくなるのではないかな。

また、図書の時間に教員が、読書の幅を広げるために「今日は、分類2の本を必ず1冊は借しましょう。」などの指定することもあると思う。長文を読むことが苦手な児童や、歴史などに興味がない児童にとって、絵本の中にも分類2の本があるということがわかっていれば、そこから自分で選ぶことができる。

実践の中にあつた、フローチャートについては、Googleスライドなどで作っておけば、QRコードを作成して、それを絵本のわかりやすいところへ載せておくことで、児童・生徒が、自分でQRコードを読み取り、次に借りる本の参考にすることができるかもしれない。教員や児童・生徒など、いろいろな人が活用できるように、今後考えて欲しい。

「学校図書館で使える資料の作成と実践」は、「学校図書館整備の相関チャート」の「授業での活用」に当たる。

本を読まない理由の一つに「読みたいと思う本がない」とあった。そのような児童・生徒にとって、パワーポイントでいろいろな本を紹介されることは、本との出会いのチャンスになる。4年生への実践は、さまざまな分類からの紹介だった。普段、あまり読まないジャンルへ読書の幅を広げるきっかけにもなったと思う。

プレゼンのときに、題名・著者・あらすじを淡々と伝えるのではなく、『消えたレッサーパンダを追え！』（たけたにちほみ/文 Gakken）の時に、「動物園から盗まれたレッサーパンダを無事保護できるのか、犯人は見つかるのか」と、続きが気になるように伝えたり、『78円の命』（谷山千華/さく メタ・ブレーン）のときに、「皆さんはどう感じますか」と問いかけたりするなど、児童とやりとりをしながら進めていくと飽きることなく聞くことができる。

今回16冊の本が紹介されていた。ワークシートやロイロノート、Googleフォームのアンケート機能を使って児童がプレゼンを聞きながら、簡単に感想やメモを残しておく方法がある。後から、自分の気になった本について振り返ることができる。教員も、児童たちの興味・関心のある本について知ることができる。

パネルシアターについては、児童たちが、いろいろな仕掛けに釘付けになった姿や、司書の身振り手振りを真似する姿など、目を輝かせながらお話の世界にのめり込んでいる姿が想像できた。自分もパネルシアターをやってみたいと思った児童もいたと思う。その気持ちが、係活動や委員会活動につながったり、下学年との交流のヒントになったりするのではないかな。このパネルシアターを倉敷市内全体で使えるようにしているところがいい。今後いろいろな学校で使われることを期待している。

今回、どちらの取り組みも、教員からの意見や児童の反応や感想を他の司書と共有し、検証し、次につなげることができていた。勤務時間の関係などで、他の教員と取り組みを振り返る時間は、取りにくいかもしれないが、PDCAサイクルの「チェック」の部分がとても大切だ。今回発表した取り組みも大会が終わったからおしまい、とするのではなく、参加者の意見などからまた検証し、次のアクションにつなげてもらえたらと思う。



I 事例発表

発表① 主体的に利活用できる学校図書館 ～環境整備の視点から～

倉敷市立西阿知小学校 管波 佐苗

倉敷市立庄中学校 金井 弥生

1 はじめに

環境整備班では児童生徒が主体的に学校図書館を利活用できる図書館づくりを目標に、研修に取り組んだ。児童生徒が図書館に興味を持ち、本を読むことの楽しさにふれ、自ら必要な本を探すことのできる図書館を目指し、基本整備を土台に、さまざまな実践を行った。小学校と中学校では、抱える問題や現状が異なるため、それぞれ分かれて実践を行った。

2 小学校での実践

まず、児童が主体的に利活用できる図書館にするためにはどのような課題があるか話し合った。現状、主に4つの問題が共通で挙げられた。

- ・分類の話をしても難しいと感じ、なかなか覚えない
- ・そもそも「分類とはなにか」が、わからない
- ・読みたい本の場所がわからない
- ・本に興味を持てない

そこで、児童の困り感を解消し、本に興味を持ってもらえば、利活用の幅が広がると考えた。「児童が目的の本を探すための工夫」、「選書目的が明確でない児童への支援の手立て」の2つに重点を置いた。

【実践】

(1) 児童が目的の本を探すための工夫

児童が本を借りる時、返す時の様子から、知識・情報ではなく、感覚で場所を覚えているのが伺える。そこで、自ら本を探す・返すを可能にする支援として、分類サインや背ラベルなど基本的整備に注目し、視覚的に分類を認識できる環境作りを目指した。

① 分類サイン

背ラベルの色と合わせ、文字の大きさ、言葉の工夫、イラストを入れるなど見やすくした。また、大人と児童では目線の高さが違うので、書架の側面も利用し、どちら側の書架にあるかわかるよう分類サインに矢印を付けた。表記も工夫し、0類の総記は「調べる本」、

1類の哲学・宗教は「心・考え方」、動物の本は「種類や特徴について」と「飼い方について」で混乱しやすいので、4類は「生きもの」、6類は「動物の飼い方」と区別するなど、分かりやすさを徹底した。

② 背ラベル

現状、背ラベルを確認して、本を見つけたり書架に戻す児童が少ない。そこで背ラベルの説明を分類サインにも添え、児童に、背ラベルの数字を意識させた。

③ 書架サイン

分類が2桁の学校は、低学年でも本を探せるよう、書架サインにもイラストを使って細分化した。また本の落下・倒れを防ぐために、箱を用い隙間を埋める書架サインを作った。

④ 館内案内図

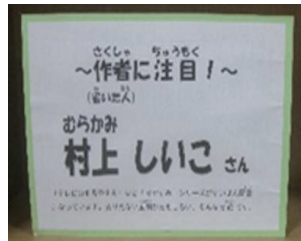
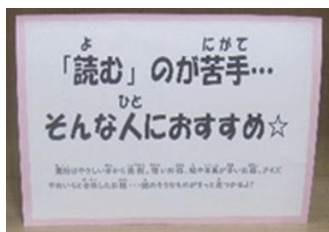
館内案内図を意識しない児童が多いので、書架サインに用いたイラストを案内図にも入れ、何枚か印刷し、児童が本の場所を聞きにきた時、館内案内図を示すことで、本の場所が認識しやすくなり、児童自ら本棚へ探しに行く姿が増えた。



(2) 選書目的が明確でない児童への支援の手立て
倉敷市は週1回、図書の日がある。その際、読書にあまり興味がない児童が一定数見られる。そうした児童に向けて、例えば野球好きなら、有名選手の伝記や野球の歴史の本を紹介するなど、1つの入り口から本の選択肢が広がる展示や掲示を心がけた。自分では気づかない好みを知るきっかけになったと思う。

① 本を探すヒントをまとめた掲示

どんな学年でもわかるよう“ひと目で認識しやすい
揭示物”、立ち止まって読んでもらえるよう“自分で
めくって中身がわかる揭示物”、「苦手な人」「作者
に注目!」「教科書に載っている本」などいくつか項
目を挙げ、それに沿った本を紹介した揭示や展示で、
児童の関心を引いた。



② ブックリスト

図書館だよりや新刊案内をファイルに綴じ、館内でも閲覧出来るようにした。特別感と見やすさ重視でカラー印刷にした。新刊の認知度も上がり、このファイルを見て予約表を書く児童も多い。

③ 本の展示

何を借りるか迷う児童には、特設コーナーを作っておくと、読みたい本を見つける一助となる。先生のおすすめ本では、担任や専科の先生の他、職員にも書いてもらった。児童は進んで借りていた。今日のおすすめ本では「今日は何の日」にまつわる本を数冊選んで展示し、見向きされないジャンルの本を薦める機会となった。倉敷市推薦図書はポスターを作成したところ、本を借りる前に必ず確認する児童が増えた。読むだけコーナーでは、市立図書館の本を定期的に入れ替えて展示し、児童の反応を見ながら選書の参考にした。同じ作者の他作品が館内にあれば紹介できるので、読書を広げるきっかけ作りになると考えた。

【まとめ】

「児童が目的の本を探すための工夫」では、分類サイン等を新しく作成した。これは学校規模に関係なく各自行えた。また、分類に関しては、図書の時間などで定期的に説明をして、意識付けが必要と感じた。図書館の本は一定の基準に沿って並び、背表紙の分類シールがその場所のヒントである、と認識できることで、読みたかった本の場所にたどりつき、元の棚に本を間違えず戻すことは、達成感と主体的な利活用につながっていくことを実感した。

「選書目的が明確でない児童への支援の手立て」では、司書側が、複数の選び方を提示することで、やみくもに探すのではなく、色々な方法があると知るきつ

かけを作れたと考える。このようなアプローチを繰り返すことで児童は経験を重ね、そこから自分の読みたい本が見えてくるのではないだろうか。

普段司書が児童を思い取り組んでいる試みこそが、使いやすい図書館をつくる第一歩と言える。また、各学校の状況に合わせて環境整備を行い、ひと手間を積み重ねていくことで、それぞれの図書館を変えていけると考える。これからも、児童が自分で考えて利活用できる環境整備をしていきたい。

3 中学校での実践

中学校では、図書館を利用する生徒の固定化、1年時のオリエンテーション以降図書館を訪れない生徒、学年が上がると徐々に足が遠くの生徒が一定数いることが課題である。来館しない主な理由は、

- ・読書以外の図書館の活用法がわからない
- ・本に興味がない
- ・すぐに欲しい本が見つからない
- ・本をゆっくり探す時間がない

などである。そこで「生徒が行きたくなる・使いたくなる図書館」、「生徒の興味関心にあった本が見つかる図書館」を柱に、生徒のニーズを反映することを意識した実践を行い、主体的に利活用できる図書館を目指した。

【実践】

(1) 生徒が行きたくなる・使いたくなる図書館

① 興味を引く参加型の取り組み

読書や学びを支える「言語」に注目し、親しむ機会を増やすというねらいのもと、生徒が「答えたい」「知りたい」と思えるような展示を行った。「季節の言葉」では、めくるとクイズの答えが書いてある揭示物で興味を引いた。「難読漢字クイズ」や「今年の漢字予想」では国語辞典や漢和辞典をそばに置いた。普段本を借りない生徒が友人と問題に挑戦し、引き慣れない辞書と格闘したり、漢字や言葉に興味を持ったりする場面が見られ、知識を得る場として図書館を認識するきっかけとなった。また、図書委員企画の七夕の短冊・受験の絵馬は先生や生徒に書いてもらい、図書館に飾った。多くの生徒が来館し、展示本を手にする生徒やその後も継続して図書館へやってくる生徒も増えた。

② 授業関連型

1年生国語「シンシユンのPOP」、2年生国語「自分流枕草子」、3年生家庭科「絵本POP」など、授業

で作成した成果物を展示し、授業での取り組みを関連付けた。また、授業で習っている学習内容を表にして見える化し、授業で習っている時期に合わせて資料の展示や学習内容を取り入れた展示を行った。図書館にはさまざまな資料があり、学習活動の場としても活用できることを知ってもらえるよう意識した。

(2) 生徒の興味関心にあった本が見つかる図書館
中学生が興味を持っている旬な情報を取り入れ、本とつなげた展示を行うことで、生徒が興味関心のある本を見つけるきっかけになると考えた。

① 興味をさそう工夫

「推しがいる作品」を展示テーマに、何かを推している人が登場する本をテーマにした展示や、推しの芸能人が出演する映画やドラマの原作本の展示を行った。また、SNSなどで話題の歌に関係する小説を集め、アーティストや楽曲のPOPをつけた「歌と小説」の展示や、人気ソング・行事を盛り上げる曲をイメージした展示を行った。曲を口ずさんだり、本を薦めあったりする生徒の様子も見られた。

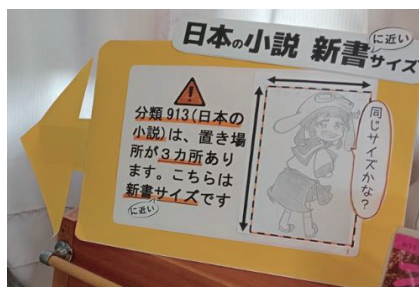
「自分が興味を持っていることが図書館でも取り上げられている」という感覚を共有でき、図書館で本を探すきっかけを生む実践となった。



② 見つけやすくする工夫

「新着本紹介」では、本を分類別に紹介することで生徒が自分の興味あるテーマを見つけやすくした。また、棚の中に1冊から紹介できる小スペースを作った。本を面出しすることで二次的なサインの役割となり、生徒が短時間で本を手にとることができると思った。4類の「自然の大きさ比べ」では、分類と関連のある掲示をすることで、具体的にどのような本があるのかわかりやすくし、誘導の効果もねらった。生徒から関心の高い596「食品・料理」の分類では、書架サインをわかりやすく、楽しんで本探しができるキャッチフレーズにした。さらに、キャッチフレーズを連動させたルーレットにし、棚の中に置いた。

本を見つけやすくする工夫として、基本整備の見直し・充実は欠かせない。各学校の実情や課題を踏まえ、生徒が短時間で自ら本を探し出せることを目指した。館内案内図はより親しみやすさを感じられるよう、生徒の人気本の場所を案内図に加えた。次に分類サインでは第一次区分のサインは「誰が見てもわかりやすく、遠くからでも見つけやすい」ユニバーサルデザインを意識した。書架サインはどの方向から見ても作家名がわかり、背ラベルと分類・作家を関連づけできるようにした。また、913「小説・物語」の分類サインは実物大のサイズを表記し、サイズ別の配架を視覚的に認識できるサインにした。



【まとめ】

生徒目線に立ち、図書館を利用しない理由を一つ一つ解決できるよう実践に改良を重ねた。また図書委員の取り組みや生徒の作品展示、友人同士での企画への参加など生徒同士が関わり影響を与え合う場面が多く見られ、生徒の興味を広げ主体的に利活用するきっかけとなった。今回の実践を通して「学校図書館」は「知識を得る」「学びを支える」「情報を発信する」「生徒の興味関心に寄り添う」場であることが生徒に認知され、今まであまり来館しなかった生徒がさまざまな目的を持って図書館を訪れるようになり「行きたくなる・使いたくなる」図書館につながった。

展示テーマの工夫や生徒の興味関心を誘う展示、自分にあった本を見つけやすくする工夫などを行うことで、「生徒ができるだけ短時間で、興味関心にあった本が見つかる図書館」を目指した。

各校のさまざまな取り組みにより、自主的に来館する生徒が増えたように思う。また、読書以外の場面でも図書館を利活用しようとする姿も見られるようになった。今回の研修を活かし、今後も生徒にとって魅力的な図書館となるよう、研修を続けていきたい。

発表② 読書活動の活性化につながる日常業務 ～倉敷市推薦図書のクイズ作成とその活用～

倉敷市立水島中学校 大上 智美

1 はじめに

私たち「日常業務活用班」は、新型コロナウイルス感染症拡大により子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していく中で、学校司書としてどう携わっていき、何をすれば子どもたちの読書活動の活性化につながるのか、何を研修していくことがよいかを話し合った。

まずは日々の仕事、日常業務を振り返った。学校図書館の年間計画、児童生徒の進級処理からはじまり、オリエンテーション、図書だよりの発行、本の選書と受入れ・装備、新刊案内、読書週間、蔵書点検など細かい業務をあげるうちに、スタッフマニュアルにあることは基本として抑えながらも各校で様々なやり方があることに着目した。児童生徒の読書活動の推進につながる日常業務の引き出しを多く持つためにも、これらの業務を細かく考え掘り下げ、記録として残したい。

2 実践

〔児童生徒の読書活動の推進につながる日常業務〕

日常業務の中で、読書活動につながる業務に焦点をあて、話し合った。まずオリエンテーションだが、学校図書館は児童生徒が本に親しみ、魅力的な本の世界を深く伝える場であることを知ってもらう大切な機会だ。工夫して実施できるとよいと話がまとまった。図書だよりは、今図書館で行われているイベントを知ってもらい、本の話題に興味をもたせ、楽しんでもらえるおたよりを作成したいと話した。読書週間、読書月間などの図書イベントは、学校により時期が様々で、大々的に行え、明るく活気に満ちた児童生徒の笑顔が図書館で見られる絶好の機会だ。倉敷市の小・中・支援学校89校あれば89通りのイベントが行われているだろう。

〔倉敷市推薦図書クイズの作成〕

こうして児童の読書活動の推進につながる内容を考えていく中で、もう一つ忘れてはならないものが倉敷市推薦図書*だ。（*倉敷市では、平成26年度から倉敷市子ども読書活動推進計画に基づき、推薦図書の選定や読書目標の設定をし、子どもの読書活動の推進に努めている。推薦図書については、倉敷市教育委員会

を事務局とし、教諭、公共図書館司書、学校図書館司書のメンバーで成り立つ倉敷市推薦図書選定委員会において作成され、令和2年に内容を改訂している。選定基準として「心が豊かになる」「生活の役に立つ」「学習の役に立つ」の3つが掲げられ、小学1・2年生向け、小学3・4年生向け、小学5・6年生向け、中学生向けに、各50冊ずつ合計200冊がリストアップされている。）



そこで私たちは、児童生徒に読書をもっと好きになってほしいという願いから作られた倉敷市推薦図書（以下「推薦図書」と略）を、児童生徒が手に取り読んでもらえるよう、リストアップされた本に関するクイズを作成することにした。推薦図書のクイズリストがあれば、図書イベントの1つとして取り入れることも可能になる。推薦図書にスポットがあたり、児童生徒がクイズに参加することで、推薦図書に興味をもち、読む機会が増えるのではと考えた。

まずは、1冊1冊の本を私たちが知ることが大切だが、幸い推薦図書が改定されてしばらく経っているのでほとんどの本のあらすじや内容については把握できていた。そしてクイズを作成する前には、班内で話し合いをして問題形式を定めた。せっかく作成しても、児童に参加してもらえなければ、意味がない。そこで、クイズ作成にあたり以下の条件を班内で共通理解とした。
*児童生徒に、推薦図書に興味をもって読んでもらう
*クイズの難易度を調整して作成する（小学1・2年生向け、3・4年生向け、5・6年生向け、中学生向け）
*答えが違っていても、正解を知れば納得できるクイズにする
*複数の答えがでないようにする
*“これなら解けるかも”と思えるクイズを作る、そ

して一番の柱を「その本に児童生徒が興味をもてるような内容のクイズを作る」とし、さらに、①1冊につき1問出題 ②3択クイズ ③シリーズものについてはどの巻から出題したかを問題の中に明記するなど、3つのルールを決めた。

推薦図書200冊を1問ずつ少人数の班員でとりかかると、多くの時間がかかってしまうため、班内で、小学校司書が小学生1・2年生の部、3・4年生の部、5・6年生の部を分担し、中学校司書が中学生の部を担当して一人50冊ずつ50問、取り決めたルールに従いクイズ作成に取り組んだ。

続いて、出来上がった推薦図書200冊200問のクイズ全問を班員が1問ずつ実際に解いてみて、思うことを意見し合い、気になる点については、実際に本を持ち寄って本文を読み内容の確認をした。クイズに偏りがあったり、答えがあいまいなニュアンスでわかりづらかったり、読み手にとって興味を持ちにくかったりするものは、作り直した。他にも、あまりに核心に迫りすぎた、ネタバレしてしまいそうなクイズは、かえって読む気を萎えさせてしまうこともあり、あえてそこに触れず作問する楽しさも味わいながら考えていった。

また、タイトルは同じでも、初版と改訂版で記述内容が変わった本のクイズについては、学校図書館システム探調 TOOL-DX2で検索し、市内の小・中・支援学校全校の蔵書を調べ、初版だけ所蔵している学校、両方所蔵している学校があることがわかったので、クイズ内容を改めて考え直した。

このように1問ずつ改めて見直し、気になったクイズは全てピックアップし、新たに班員全員がそれぞれ違った視点から取り組んで作成し、再び検討して最終決定をした。

クイズ最終チェックの段階では、表記の仕方を細かく確認した。漢字やかなの使い方は、クイズのもとになる本の表記のままを使うようにした。このクイズは一覧表にして共有したいと考えているので、答えの位置や改行などを合わせ、見やすく使いやすようにした。こうして、一覧表にまとめ完成した。

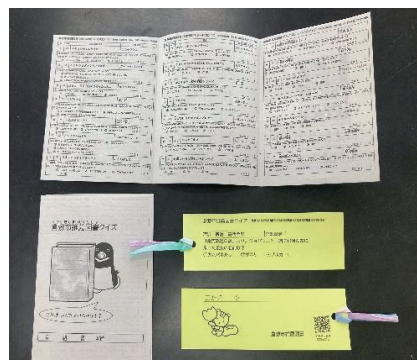
No.	Q	A
1.	はなちゃんのみそ汁の著者は誰ですか？	① 山崎 ② 山崎 ③ 山崎
2.	きみの友だちの著者は誰ですか？	① 山崎 ② 山崎 ③ 山崎
3.	はなちゃんのみそ汁の出版社はどこですか？	① 山崎 ② 山崎 ③ 山崎
4.	きみの友だちの出版社はどこですか？	① 山崎 ② 山崎 ③ 山崎
5.	はなちゃんのみそ汁の登場人物は誰ですか？	① 山崎 ② 山崎 ③ 山崎
6.	きみの友だちの登場人物は誰ですか？	① 山崎 ② 山崎 ③ 山崎

〔倉敷市推薦図書クイズの実践〕

完成したクイズを用いて、班員それぞれが各校で実践した。やり方は各々で違い、興味深い検証となった。（発表では小学校3校、中学校から2校、計5校の実践を紹介したが、ここでは各1校ずつを具体的に引きあげた）

◆ A 小学校の実践

- ・実施…全校児童を対象に、休み時間に行った。
 - ・方法…
- ① クイズと答えを両面に印刷し、リボンを通してしおりの形にする。しおりの答えの面に、推薦図書一覧の二次元コードを印刷し、児童のタブレット端末で見られるようにする。
 - ② 図書だよりに掲載し、館内にも案内を掲示する。
 - ③ カウンターにクイズの本の展示コーナーを設置。
- ・児童の様子と感想…しおりとセットで渡すので「かわいしいしおりがもらえてうれしい。クイズもしてみようと思う。」という感想を聞いた。
 - ・反省と今後の課題…しおりに印刷した二次元コードをタブレット端末で読み取ると、推薦図書一覧が見られると伝えたが、実際に見てくれているかわからないので、今後は図書の時間に紹介をし、その場でタブレットで見てもらうようにしたい。



◆ B 中学校の実践

- ・実施…全校生徒を対象に、休み時間に行った。
 - ・方法…
- ① 館内にビンゴ形式のクイズの解答用紙を用意。

- ② 参加者は、推薦図書の中から本を選び、クイズが書かれたしおりを受け取る。
- ③ 本を読みクイズに挑戦して答えを解答用紙に記入。
- ④ 返却時、解答用紙を提示してもらい、正解がそろえばプラス券を渡す。
- ・生徒の様子と感想…解答用紙の記入の仕方がビンゴ風なので、本を選ぶ目安にもなり、次々と借りられていた。「3択クイズが解きやすく、ある程度推測して読むこともできるのが楽しかった」という感想も聞けた。
 - ・反省と今後の課題…いつもどの本を借りるか迷っている生徒へのきっかけができてよかった。クイズの答えが明白にわかる部分やどう書かれているか等、司書が事前に把握しておくとうい。



3 おわりに

このメンバーで研究をはじめた4年前は、新型コロナウイルス感染症の真ただ中で、図書の利用時間が減ってしまった学校図書館と子どもたちの距離を少しでも近づけたい気持ちでいっぱいだった。より親しみやすく、そしてすてきな本の世界を伝えるためには、どのような方法があるか、改めて話し合う時間ができたことはよかった。

そのような中で、図書館が楽しめる場所となる図書イベントについて考え、この度は、倉敷市推薦図書から図書クイズを作成し、様々な方法で実践をした。私たちは、“いつも人がいる、誰かが利用している図書館”をめざし、明るく活気に満ちた読書環境を整え、図書館を利用する児童生徒の読書活動の推進のために日々努力しなければならないと思っている。そのためにも、司書同士で話し協力し研究して、可能なものは共有し、いろいろな引き出しを持つ学校図書館司書としてスキルアップしていきたい。

II 質疑応答

Q 倉敷市の推薦図書は、生徒が必読する図書なのか、扱いを教えてください。

A 必ず読まないといけない図書ではないが、倉敷市では年間の読書目標冊数が設けられており、小学1～4年生は80冊のうち推薦図書20冊、小学5～6年生が70冊のうち10冊、中学生が15冊のうち2冊となっている。

日常業務活用班では、ぜひ子どもたちに推薦図書を手にしてもらいたいという思いから、クイズ形式で促進に取り組んだ。

III 助言

【環境整備班の実践】

学校図書館という場所は、エビデンスではなく、たくさんのエピソードでできているということを、再確認した研究発表だった。それはここに来られている司書の先生方も同じと思われる。本日、数として20ほどの細かな取り組み、心遣いを紹介してもらったが、いろんな場所で子どもたちとのよいエピソードを作っている。それらをヒントにして、他の学校司書の先生方にぜひ、読書活動の推進のために上手く利活用していただけたら、ありがたい。

【日常業務活用班の実践】

今年1月頃の日本教育新聞の中で、全国学校図書館協議会(全国SLA)の東海林 典子さんが、現在、学校図書館用に選書した基本となる図書目録は残念ながら、という内容を記事に書かれていた。倉敷市推薦図書はまさに、日本で唯一のそれにあたる「かも」しかない。その推薦図書に目を向けたということがこの実践の成功の1つであろう。さらに、クイズ形式で親しみやすく、一人の司書が頑張るだけではなく、助け合い無理なく実践したことも、成功につながっている。

また、しおりに二次元コードを印刷した小学校の取り組みは、今、文科省が推薦しているタブレットを使った学習につながっていくことであろう。新機能を導入した取組は入りづらいが、そういった工夫をこの場に來られた司書の先生方に、ぜひ頑張ってください。

第70回読書感想文岡山県コンクール

I 日 程

- 6月11日(火) 応募要項配布
第1回支部事務局長会議
- 9月27日(金) 応募締め切り(必着)
応募先・事務局
*小・中・・・岡山市立竜操中学校
門田 琴音
*高校・・・岡山県立倉敷南高等学校
平松 玲子
- 10月8日(火) 第1回合同審査会
～ 《審査期間》
- 10月24日(木) 第2回審査会(最終審査)
〈小学校・中学校・高等学校 校種別〉
- 12月27日(木) 表彰式

II 県審査委員

審査委員長 (SLA 会長)

森田 保志 岡山県立玉島高等学校

審査副委員長

相原 洋 毎日新聞社岡山支局長

審査副委員長 (SLA 副会長)

野崎 尚子 岡山市立灘崎小学校

川原 悦子 岡山市立光南台中学校

藤井 省吾 岡山県立倉敷天城高等学校

審査委員

清岡 義文 岡山市立清輝小学校

神尾 媛乃 岡山市立津島小学校

木下由布子 岡山市立陵南小学校

片山 遥 岡山市立財田小学校

河合 徳枝 岡山市立開成小学校

黒石 浩史 岡山市立興除小学校

島口くみ子 和気町立本荘小学校

出射恵利子 玉野市立田井小学校

岡野 宏子 玉野市立築港小学校

鈴木 悠理 備前市立三石小学校

大饗 優華 備前市立香登小学校

福島美由紀 備前市立香登小学校

土井 美絵 倉敷市立豊洲小学校

藤井 治美	倉敷市立連島北小学校
工藤 愛咲	倉敷市立連島南小学校
桑田 大雅	倉敷市立琴浦南小学校
菊井 麻衣	倉敷市立乙島小学校
長田 里紗	倉敷市立乙島東小学校
西 優子	倉敷市立菌小学校
生宗 瑞姫	倉敷市立岡田小学校
藤岡 隆	浅口市立金光竹小学校
秦 佑喜子	井原市立西江原小学校
野浪 優花	高梁市立落合小学校
迫田 栄理	新見市立神代小学校
山崎 瑞貴	津山市立高倉小学校
田中 陽子	鏡野町立大野小学校
大平 花菜	真庭市立河内小学校
畦田 理恵	真庭市立月田小学校
大倉 千穂	真庭市立湯原小学校
吉藤 亨希	岡山大学教育学部附属中学校
河田 雪奈	山陽学園中学校
羽柴 昌枝	新見市立新見第一中学校
春日麻由美	久米南町立久米南中学校
藤本 久美	倉敷市立南中学校
松永みどり	倉敷市立玉島東中学校
後藤 亨朗	備前市立備前中学校
福圓 岬	玉野市立宇野中学校
門田 琴音	岡山市立竜操中学校
田中 杏佳	岡山市立高島中学校
河田 麻凜	倉敷市立倉敷翔南高等学校
植田 恵理	岡山商大附属高等学校
福森 裕加	岡山理大附属高等学校
中尾 祐介	岡山白陵高等学校
前田 理絵	鳥城高等学校
小河原 碧	矢掛高等学校
中村 文音	倉敷翠松高等学校
室井 純也	高梁高等学校
岡 睦子	真備陵南高等学校
平松加奈子	松山高等学校

Ⅲ 岡山県指定図書

学年向	書名（シリーズ） 著者名	発行所
小 (低)	エビフライのしっぽたべようクラブ 平田 昌広	文研出版
	わたしのおにいちゃん！ くすのき しげのり	光村教育 図書
	じぶんをすきになる おま じない 高橋うらら	大泉書店
小 (中)	おとな体験授業？ なかがわ ちひろ	アリス館
	挫折しそうなときは、左折し よう マーク・コラジョバンニ	光村教育 図書
	2 だい目びょういんきんむ 犬 モリスのでばんです！ 若月としこ	岩崎書店
小 (高)	アナタノキモチ 安田 夏菜	文研出版
	ブラックバードの歌 カチャ・ベーレン	あすなろ 書房
	給食が教えてくれたこと 「最高の献立」を作る、ぼく は学校栄養士 松丸 奨	くもん 出版
中 学 校	アップサイクル！ ぼくら の明日のために 佐藤まどか	ポプラ社
	生まれかわるヒロシマの折 り鶴 佐藤 真澄	汐文社
	モノクロの街の夜明けに ルーター・セペティス	岩波書店

Ⅳ 結果

1) 応募作品数・応募校数

区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
小学校低学年	4,970 編	4,226 編	3,295 編
小学校中学年	7,997 編	7,057 編	5,837 編
小学校高学年	8,453 編	7,398 編	6,032 編
中学校	19,933 編	18,391 編	14,591 編
高等学校	11,051 編	9,593 編	9,181 編
計	52,404 編	46,665 編	38,936 編
応募校数	594 校	554 校	562 校

2) 特別賞受賞者（最優秀賞受賞者）

岡山県知事賞

総社市立総社西中学校 柳生 愛実

岡山県議会議長賞

岡山市立浮田小学校 山本康太郎

岡山県教育委員会教育長賞

津山市立一宮小学校 藤原 一葉

岡山商工会議所会頭賞

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 中田ころこ

岡山市長賞

赤磐市立山陽小学校 田中 那奈

岡山県読書推進運動協議会会長賞

赤磐市立山陽東小学校 越智 彩水

瀬戸内市立牛窓西小学校 平松 千歳

清心中学校 平松 夢

毎日新聞社岡山支局長賞

岡山市立御南小学校 児玉 遥

倉敷市立茶屋町小学校 山本 哲平

倉敷市立味野中学校 稲垣 輝

岡山県学校図書館協議会会長賞

岡山県立玉野光南高等学校 平藤 育実

岡山市立鹿田小学校 西村 優杏

岡山市立東疇小学校 天田 咲輝

3) 全国コンクール入賞者

内閣総理大臣賞

津山市立一宮小学校 藤原 一葉

全国学校図書館協議会長賞

岡山市立東疇小学校 天田 咲輝

サントリー奨励賞

赤磐市立山陽小学校 田中 那菜

サントリー奨励賞

岡山県立岡山大安寺中等教育学校 中田ころこ

優良図書研究部会

1 活動内容

当部会では、5月、6月、7月、8月、9月、11月、1月、2月の年8回、県立図書館の御協力において、新刊図書の中から、小学校・中学校の児童・生徒のための「おすすめの本」を選定しています。

研究員は、小学校（低・中学年、高学年）と中学校の3グループに分かれ、下記の選定基準に沿って、また、過去の傾向や、価格面、ページ数、字の大きさなど、いろいろと配慮しながら、それぞれのグループで意見交換した上で選定作業（書評の記入等）をすすめています。

ただ、インターネットの利用拡大に伴い、本の現物が少なくなっている現状もあります。そのため、選定月により新刊本の出版数に多い少ないがあり、また、学年によっては、分類が偏る傾向があるなど、年間を見通した選定も必要となります。

長期休業中を利用して、児童・生徒に「こんな本を読んでもたらどうですか」と、お勧めの本も紹介しています。このお勧めの本は、読書感想文のための本とは限らず、各学年に応じて、読んでもらいたいという本の最新刊をそれぞれ選定しています。

これは、それまでの各月の選定図書の中から選ばれ、夏休みと冬休み前に、県下の小・中学校に「みなさんにすすめたい本」として、本の書評をつけて、配布しています。（カラー版ではないのが残念ですが…）

岡山県青少年読書感想文コンクールでは、岡山県独自のものとして、昭和55年から指定図書を設けていますが、ここでも、当部会の選定図書をもとに、毎年3月、岡山県指定図書選定委員会が県立図書館にて開かれ、優良図書として選定された本も含めた中から、小学校低・中・高学年・中学校向けに、3冊ずつを選んでいきます。

この研究部会の活動が、県下の小・中学校の児童・生徒の読書、先生や保護者の方々の読書指導の道標として、今後も、より効果的に機能するように活動していきたいと考えています。

2 選定基準

(1) 内容事項

- ① 教育課程によく合っていて、その内容を豊かにするものであるかどうか。
- ② 子どもたちが、興味をもって読め、小（低）、小（中）小（高）、中学生の発達段階に合ったものであるかどうか。
- ③ 分かりやすく、正確で、現代の進歩に合っているかどうか。

イ) 統計は正確で、調査年度、出典が正確であるかどうか。

ロ) より新しい知識であり、新研究であるか、新しい方法であるかどうか。

ハ) 事実の叙述は、科学的に正確で、实际的であるかどうか。

ニ) 引用文、挿し絵、写真、図表などは、正確、鮮明、適切であるかどうか。

ホ) 翻訳は原意を伝え、分かりやすく、原著者、年代、原著書が明記されているかどうか。

ヘ) 断片的な知識でなく、体系的にまとまりのあるものであるかどうか。

④ 主題を単に解説したものはとりあげない。

(2) 編集・出版事項

- ① 短編集は採用しない。
- ② 多くの合さんのものは採用しない。
- ③ 新刊書であること。
- ④ 辞典、事典類は採用しない。
- ⑤ シリーズ全巻を対象としない。

(3) 図書群の構成事項

- ① 特選図書全体を通して、ある分類ばかりに偏り過ぎない。できるだけ広い分野で考慮する。
- ② 小（低）、小（中）、小（高）、中学生向けのバランスを考慮する。

(4) 装丁・体裁事項

- ① 製本、外観、大きさが適切で、書誌的体裁が整っているか。
- ② 用紙は上質、印刷は鮮明、色彩は美しく、字の大きさ及び行間の余白が適切であるか。

3 優良図書研究会部員

部会長： 野崎 尚子 岡山市立灘崎小学校校長

事務局長： 黒石 浩史 岡山市立興除小学校教諭

研究部員：

〈小学校の部〉

木下由布子 岡山市立陵南小学校教諭

土師 知子 岡山市立足守小学校司書

那須 祐子 岡山県立図書館司書

〈中学校の部〉

藤本 久美 倉敷市立南中学校教諭

森 由美子 岡山市立石井中学校司書

みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい夏休みがやってきます。みなさんにおすすめしたい本を学校図書館協議会の先生方を選んでもらいました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうでいかにん お

小学校低学年向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	小手鞠るい/作 すずきみほ/絵	ななちゃんの たからもの	岩崎書店	80ページ 1,100円

きくのちゃんは、本が大すきな女の子。本のほかに、友だちなんていなくても平気だと思っていたのです。しかし、きくのちゃんのおばあちゃんである「ななちゃん」のひみつをして、友だちをつくりたくなったようです。



E	田中ひろこ /作・絵	わたしのいいたいこと	ニコモ	32ページ 1,400円
---	---------------	------------	-----	-----------------



みなさんは「なんで！」といわれたことがありますか。いおうと思っても、なんていったらよいかと考えていたら、おなかの中がもやもやしてきていえなくなってしまう。そんなとき、だれかがかわりにいってくれたらよいのですが…。

E	阿部浩志/著 多田多恵子/監修	これはなんのつぼみかな ①こうてい かだん	汐文社	32ページ 2,500円
---	--------------------	--------------------------	-----	-----------------

みなさんは、どんなつぼみを見たことがありますか？いろいろな花があるように、つぼみのすがたもさまざまです。つぼみのふしぎを見つけてくださいね。自分のまわりには、どんなつぼみがあるのか、さがしてみたくになりますよ。



小学校中学年向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
E	おおのこうへい/作・絵 キッズ・マナー・ステーション/監修	おかねにようかい？	赤ちゃん和妈妈社	32ページ 1,400円

のんびりやさんのソラくんは、おしおのれのおくで古びたがま口のさいふを見つめます。それは、お金のようかい「カネモン」でした。ソラくんとカネモンといっしょに楽しくわかりやすくお金のことを学べます。

おかねにようかい？



913	今西乃子/作 くまおり純/絵	犬がえらんだ人 捨て犬ドンとおじさんの 命のものがたり	合同出版	96ページ 1,600円
-----	-------------------	-----------------------------------	------	-----------------



ぼくはかいぬしに捨てられた犬。河原で出会ったおじさんについていき、飼われることになりました。初めて命の尊さと生きることへの喜びを見つめることができた、この国で起きていることから生まれたお話です。

E	マーラ・ロックリフ/文 ジゼル・ポター/絵 福本由紀子/訳	たべてみて！ フリーダ・キャプランが ひろげた食のせかい	BL 出版	32ページ 1,800円
---	-------------------------------------	------------------------------------	-------	-----------------

キウイフルーツ，スナップエンドウなど，今ではみんなが食べている野菜や果物をさいしょに売り始めた人を知っていますか？フリーダ・キャプランは，楽しみながら，みんなの食の世界を広げていったのです。



小学校高学年向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	山本悦子/作 佐藤真紀子/絵	わたしに続く道	金の星社	256 ページ 1,500 円

『ケニア人の父と日本人の母のもとに生まれた少女, リイマ。「人種差別」「外国人」という周囲の言葉に, 自分は日本人だという確信がゆらいでいく。複雑な思いを抱えたまま, 実父の故郷であるケニアへ行く機会が到来する…。



486	谷本雄治/著	ぼくらは田んぼ応援団！ 福島ゲンゴロウ物語	汐文社	128 ページ 1,600 円
-----	--------	--------------------------	-----	--------------------



東日本大震災からの復興を目指す福島。そのかげで希少なゲンゴロウも姿を消していた。様変わりした田や沼。ところが調査を進めていくと驚きの発見が。小さな虫が福島の田に希望をもたらす。異色の食農応援ファンタジー！

933	モニカ・ロー/著 中井はるの/訳	車いすでジャンプ！	小学館	320 ページ 1,500 円
-----	---------------------	-----------	-----	--------------------

エミーは車いすで宙を舞い, 大ジャンプを決めるモトクロス選手にあこがれる 12 歳の女の子。手作りのジャンプ台で練習を重ね, 競技用の車いすを買うための資金集めも順調。夢に向かって着実に進んではいたけれど…。



中学生向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	十夜/原作 木野誠太郎/著 ふすい/イラスト	Re：cycle ～たったひとりのアイドル～	PHP 研究所	233 ページ 1,300 円

家業である「カザハヤサイクル」を閉店の危機から救うため、泰輪はいろいろと行動する。SNS で自ら「チャリドル」として活動すると、どんどん人が集まり始める。お客も友だちも巻き込んでいく様子にワクワクさせられる。



933	R・J・パラシオ/原作 エリカ・S・パール/ノベライズ 中井はるの/訳	ホワイトバード	ほるぷ出版	314 ページ 1,600 円
-----	---	----------------	-------	--------------------



いじめをして退学になり、新しい学校に通い始めたジュリアンは、学校の宿題でおばあちゃんの子どものころの話を作文に書くことにする。おばあちゃんが話してくれた戦争の記憶は、辛く、悲しく、そしてなお、人の温もりを感じる物語だった。

242	山花京子/著 近藤圭恵/画	なんでファラオは男なの？ 古代エジプト女王の源流を探す旅	新泉社	392 ページ 2,200 円
-----	------------------	--	-----	--------------------

中学一年生の佐藤美羽は、母とともに参加した日本語サークルのボランティアがきっかけでエジプト人留学生ヤスミンと仲良しになりエジプトに行くことに。古代エジプトで、女性で王様になったハトシェプストの軌跡をたどる旅を通して、女性と社会との関わり方に興味を持つ。



みなさんにすすめたい本

岡山県学校図書館協議会

もうすぐ楽しい冬休みがやってきます。学校図書館協議会では、みなさんにおすすめしたい本を選びました。これらの本の中から一冊でも多く読んで、楽しい時間を過ごしてください。

〈おうちのかたがたへ〉

保護者が子どもに本を読むことは、読書に親しむ基礎づくりになります。また、読書をすすめることにより、心が通じ合い、対話がよりいっそうふえることになります。

しょうがっこうでいかにん お

小学校低学年向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
E	長谷川あかり/作・絵	てんごくまえデパート	文研出版	32ページ 1,500円

あるひ、しんでしまった にゃんきちさん。おむかえがきて てんごくへむかうと おもいきや、やってきたのはふしぎなデパート！ そこは、いきているあいだに「やりのこしたこと」ができるデパートだったのです。



E	三次智暉/作 さわたきしずく/絵	ぼくのなまえ	文芸社	24ページ 1,200円
---	---------------------	--------	-----	-----------------



ぼくのなまえは「けんた」。お母さんが「けんちゃん おきなさい。」とぼくをおこす。「けんた」じゃないけど、ぼくらしい。ぼくのことを まわりの人は いろんなよびかたをして、ぼくが いろんなかんじかたをするのは なぜだろう。

E	ペトル・ホラチェック/作 いわじょうよしひと/訳	ちびミミズクの こわーいいちにち	BL 出版	32ページ 1,800円
---	-----------------------------	---------------------	-------	-----------------

ちびミミズクは、ママのいいつけをきかず、そーっとすあなからぬけだしました。しりたがりやのちびミミズクは、いろがいったいの あかるいせかいで ドキドキワクワクはじめての だいぼうけんです。



小学校中学年向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	やませたかゆき/作 はせがわはっち/絵	ぼくがぼくに 変身する方法	岩崎書店	104ページ 1,300円

フリーマーケットで「変身ベルト」を見つけた4年生のタクミ。子どもっぽいと思われても、好きなものはずっと好きなんだ。このベルトのふしぎな力でタクミは変身し、夢がまさかの現実になったのに…。元のすがたにもどれない大ピンチ！



913	今西乃子/文 あたち たち/絵	犬にかまれたチイちゃん、 動物のおいしゃさんになる	岩崎書店	104ページ 1,300円
-----	--------------------	------------------------------	------	------------------



チイちゃんは、すごくやさしい子です。犬にかまれて、きらいになるのではなく「ごめんなさい。」とあやまりました。チイちゃんは、話ができない犬の気持ちを、もっとわかるようになりたいと思ったようです。

483	水口博也/著	クラゲのくらし	少年写真 新聞社	40ページ 2,000円
-----	--------	---------	-------------	-----------------

水族館で見るクラゲは、ふわふわとただよっていてステキですね。実は、いまからおよそ5億年前の太古の海にも同じようにただよっていたようです。そんなクラゲたちは、いったいどのようにしてくらしているのでしょうか。



小学校高学年向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	志津栄子/作 末山りん/絵	ぼくの色、見つけた！	講談社	224 ページ 1,500 円

トマトを区別できない、肉が焼けたタイミングがわからないことから、色覚障がいが発覚し苦しむ信太朗。眼科の先生は個性の一つと言ってくれるけれど、まわりがそうとはとらえてはくれないし…。学年が上がってクラス担任が変わり、自分自身に向き合ってくれたことで、信太朗は自分の目へのとらえ方が少しずつ変わっていくことに気が付く。



933	マギー・ホーン/著 三辺律子/訳	はなしをきいて 決戦のスピーチコンテスト	理論社	302 ページ 1,800 円
-----	---------------------	-------------------------	-----	--------------------



ミドルスクール2年生のヘイゼルは、今年のスピーチコンテストで優勝を目指していた。宿敵は、昨年の優勝者のエラ・クイン。エラの秘密をきっかけに二人は接近しはじめる。そしてヘイゼルは、SNS アカウントの悪質な書き込みにエラがおびえていることを知る。ハラスメント、LGBTQ、SNS トラブルなど、現代的なテーマをあつかった青春小説。

588	横田亜未 /著 田口 愛 /協力	ジャングルのチョコレート工場 甘いチョコの甘くない現実に挑んだ大学生	ポプラ社	158 ページ 1,800 円
-----	---------------------	---------------------------------------	------	--------------------

遠いガーナの地で、カカオビジネスに変革をもたらした田口愛さんの活動を追ったノンフィクション。コンセプトは「境界線を溶かすチョコレート」。生産者と消費者の境界線を溶かし、両者がチョコレートを通して幸せになってほしいという願いが込められている。「まずは、周りにいる人に愛をもって接すること。小さなことでも大きな愛で接すれば世界は変わる。」という彼女の活動を紹介する。



中学生向き

分類	著 者 名	書 名	発行所	ページ 価格（税抜）
913	落合由佳/著	要の台所	講談社	224ページ 1,500円

クラスメイトに「スパイスみたいな子だね」と言われる要は引っ込み思案。そんなある日、ネパールから来たお隣さん、サリタと友だちになりたいと願う要は、近所の「がみババ」に料理を教わることに。言葉で満足にコミュニケーションをとれなくても、料理でなら気持ちを伝えられる。日本とネパール、違う文化で育ってきた二人が、料理を通じて少しずつ心を通わせていく。



933	ヴァルシャ・バジャージ/著 村上利佳/訳	スラムに水は流れない	あすなろ 書房	240ページ 1,600円
-----	-------------------------	------------	------------	------------------



インド有数の大都会ムンバイ。ミンニと兄サンジャイが暮らすスラムには圧倒的に水が足りない。水不足がきびしくなる三月、兄サンジャイが闇の世界の「水マフィア」を目撃してしまい…。家族の絆、友情…。人は水なしでは生きていけない。でも、ほんとうに必要なのはそれだけじゃない！手に汗にぎる物語！

646	有沢重雄/著 中村純/監修	もしもミツバチが世界から 消えてしまったら	旬報社	188ページ 1,700円
-----	------------------	--------------------------	-----	------------------

ハチミツや蜜ろう、草花の受粉など、私たちの生活にいろいろな恩恵を与えているミツバチの異変と危機。ミツバチとその役割について知り、もしもミツバチが世界から消えてしまったら私たちの暮らしはどうなるのか。ミツバチの今と私たちのこれからを考える。



指定図書選定委員会

令和7年2月27日（木）、岡山県立図書館において、指定図書選定委員会を開き、令和7年度第71回青少年読書感想文岡山県コンクールの「県指定」図書を選定した。来年度4月に発表される全国コンクールの課題図書と照合し同作品が課題図書となった場合は、候補作の中の優先順位の高い作品から選定する予定である。

指定図書選定委員

県SLA会長	森田 保志	岡山県立玉島高等学校
副会長	野崎 尚子	岡山市立灘崎小学校
〃	川原 悦子	岡山市立光南台中学校
小教研事務局長	藤田 雪絵	岡山市立灘崎小学校
〃	黒石 浩史	岡山市立興除小学校
中教研事務局長	門田 琴音	岡山市立竜操中学校
中教研事務局長補佐	田中 杏佳	岡山市立高島中学校
県SLA事務局長	武部 和範	岡山県立玉島高等学校
アドバイザー	難波 朋美	岡山県教育庁義務教育課
選定委員	木下由布子	岡山市立陵南小学校
〃	土師 知子	岡山市立足守小学校
〃	那須 祐子	岡山県立図書館
〃	藤本 久美	倉敷市立南中学校
〃	森 由美子	岡山市立石井中学校

岡山県指定図書について

1 内 容

読書感想文コンクールの自由読書と課題図書の他、岡山県独自の応募区分「県指定」を設ける。

2 目 的

- (1) 岡山県の状況に応じた読書普及を推進する。
- (2) 何をどう読ませるか、図書の選択や読書指導の手がかりにする。
- (3) よりよい図書をより多くの子どもたちに読ませ、読書生活を豊かにさせる。
- (4) 岡山県優良図書選定委員会の選定した図書の有効活用を図る。

3 方 法

- (1) 岡山県指定図書は、指定図書選定委員会を設けて協議し、決定する。
- (2) 岡山県学校図書館協議会優良図書研究部会の選定した図書などから選定する。
- (3) 冊数は、小学校低学年3点、小学校中学年3点、小学校高学年3点、中学校3点とする。

4 その他

- (1) 字数、用紙、応募作品、出品数、締め切り、送付先、審査、その他の注意事項については、他の区分の応募要項に準ずる。
- (2) 全国コンクールの応募については、自由読書と一緒にして再度審査し、規定どおり出品する。
- (3) 岡山県指定図書は、昭和55年度（第26回）から設けている。

令和6年度岡山県指定図書（県指定）

学年向	書名（シリーズ） 著者名	発行所
小 (低)	エビフライのしっぽたべようクラブ 平田 昌広	文研出版
	わたしのおにいちゃん！ くすのき しげのり	光村教育図書
	じぶんをすきになる おまじない 高橋うらら	大泉書店
小 (中)	おとな体験授業？ なががわ ちひろ	アリス館
	挫折しそうなときは、左折しよう マーク・コラジョバンニ	光村教育図書
	2 だい目びょういんきんむ犬 モリスのでばんです！ 若月としこ	岩崎書店
小 (高)	アナタノキモチ 安田 夏菜	文研出版
	ブラックバードの歌 カチャ・ベーレン	あすなる書房
	給食が教えてくれたこと「最高の献立」を作る、ぼくは学校栄養士 松丸 奨	くもん出版
中学校	アップサイクル！ ぼくらの明日のために 佐藤まどか	ポプラ社
	生まれかわるヒロシマの折り鶴 佐藤 真澄	汐文社
	モノクロの街の夜明けに ルーター・セペティス	岩波書店

岡山県学校図書館協議会司書部会 活動報告

1. 第45回岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会）

令和6年7月25日（木）ライフパーク倉敷にて開催

コロナ禍を経て5年ぶりの対面開催となった今回の研究協議会には、岡山県下の地域校種を超えた学校司書が集った。参加者は278名。全体会と分科会で、この間に研修を重ねてきた取り組みについて、倉敷市小中学校・備中地区の高校から計9本の発表を行い、情報交換や交流をすることもできた。

今後の大会はオンライン開催と対面開催の隔年実施予定であるが、参加者・運営ともに利便性と業務の省力化を図るため、引き続き開催方法を見直していく。

2. 令和6年度学校司書実態調査

目 的：学校司書の配置並びに雇用状況と、各地区での活動状況について情報を収集し、まとめた状況を公開する。

※状況部分のみをHPで公開。作成のため収集した情報は、理事会保管とする。

日 程：3月初旬 理事選出支部へEメールを送付して依頼。

4月中旬 支部事務局長へEメールを送付して依頼、支援学校へFAXで依頼。

5～6月 各支部事務局内の各学校に調査依頼・回収・集計。

6月3日 調査結果回収締め切り。

6～7月 まとめ作業、不明な点を確認。

実 態：

- ・ 岡山市では再任用職員（31時間勤務）が2名退職し6名になり、会計年度任用職員（35時間勤務）が98名から100名に増。小・中学校及び義務教育学校の正規職員は19名で変更なし（正規職員に定年延長4名を含む。その他市教委事務局に1名）。
- ・ 倉敷市では小学校1校が休校になり学校数が減り、それに伴い司書数も1名減となっている。
- ・ 総社市では小学校2校と中学校1校が統廃合され、義務教育学校が新設された。そこには小・中学校キャンパス勤務の司書が1名配置されている。
- ・ 苫田郡では、小学校5校を兼務していた司書が退職。後任が決まらず未配置の状態で、司書数も1名減となっている。
- ・ 久米郡美咲町では、小学校1校と中学校1校が義務教育学校として再編され、2名の司書が公立図書館から派遣で配置されている。
- ・ 真庭郡新庄村の小学校・中学校では、令和5年度まで派遣されていた公民館職員が退職後、司書不在になっている。
- ・ 高校備前支部では、私立1校で司書が配置されず、司書数が1名減になっている。
- ・ 高校備中支部では、県立の分校が統合されたが、市立の定時制高校に分校ができたため、校数は変わっていない。新たにできた分校と昨年募集中だった公立校それぞれに1名ずつ司書が配置され、司書数は2名増えている。

3. 岡山県SLA司書部会ホームページ ※R6年8月より、新HPに移行

URL: <https://okayamasisho.sakura.ne.jp/>

目 的: 学校司書の配置状況ならびに雇用の状況、地区での活動状況、司書部会沿革、司書部会活動状況等を広報するために運営。

内 容: 上記の他、学校図書館関連ニュース(新聞記事や議会議事録)、図書館イベント情報(講演会や研修会)、学校司書採用試験情報、司書教諭と学校司書の連携協力による実践事例、学校図書館の活用方法や児童生徒の読書活動に関する情報収集・共有など。

課 題: 広く情報収集をしていくことと、その情報を閲覧してもらうこと情報がありましたら、岡山工業高等学校・司書または、司書部会HP【お問い合わせ】よりお願いいたします。

4. 司書部会理事会

◇第1回理事会 令和6年6月21日 Web会議システムにて開催

- ・HPの更新について
- ・学校司書実態調査について
- ・第45回岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会)について

◇第2回理事会 令和6年9月20日 岡山朝日高校にて開催

- ・令和6年度活動方針に係る具体的な役割分担について
- ・第45回岡山県学校司書研究協議会(倉敷大会)総括
- ・令和7年岡山県学校司書研修会(美作大会)及び今後の大会について
- ・学校図書館の充実にに関する提案書について

◇第3回理事会 令和6年12月16日 岡山朝日高校にて開催

- ・令和7年岡山県学校司書研修会(美作大会)及び今後の大会について
- ・HPの活用について

◇第4回理事会 令和7年3月 岡山朝日高校にて開催

- ・令和7年岡山県学校司書研修会(美作大会)について
- ・来年度の事業計画について

5. その他

◇「学校図書館の充実にに関する提案書」の提出について

提出日: 令和6年11月11日(月)

提出先: 岡山県教育委員会

内 容: 実態調査の結果を踏まえ、①県下すべての学校で一校一人体制の学校司書の配置促進 ②学校司書の資質向上のため、継続的な研修とそれに伴う予算措置について、各自治体へ働きかけを行うよう提案した。

◇令和7年岡山県学校司書研修会(美作大会)について

日 時: 令和7年7月30日(水) 午後 web会議システム(ZOOM)によるオンライン開催

内 容: 司書部会総会(実態調査報告等)

全体会 講師: 木下 通子 氏(元埼玉県立高校司書「オフィスみちねこ」代表)

実践発表 玉野市(小・中)、高校備前(発表は動画を事前視聴)

※参加費は不要です。

令和6年度事業報告

	実施事項	期 日	会 場	内 容
5 月	新旧代表役員会及び研修会	5/9（木）	玉島高等学校	・ 役員の確認 ・ 総会提出議案の協議
6 月	令和6年度総会及び研修会	6/6（木）	ライフパーク倉敷	・ 令和5年度事業・決算報告 ・ 令和6年度事業計画・予算案
	第1回司書部会理事会及び研修会	6/21（金）	オンライン	・ 学校司書実態調査について ・ 学校司書研究協議会について ・ 各地区情勢報告
	第1回支部事務局長会議及び研修会	6/11（火）	玉島高等学校	・ 総会議決事項報告 ・ 事務連絡 他
7 月	第45回岡山県学校司書研究協議会（倉敷大会）	7/25（木）	ライフパーク倉敷	・ 全体会、分科会、その他
9 月	第2回司書部会理事会及び研修会	9/20（金）	岡山朝日高等学校	・ 学校司書研修会について ・ 各地区情勢報告
10 月	読書感想文コンクール審査準備会及び研修会	10/4（金）	竜操中学校	・ 審査会準備
	読書感想文コンクール第1回合同審査会	10/8（火）	玉島市民交流センター	・ 審査日程・審査基準について
	読書感想文コンクール第2回審査会	10/23（水）	ウエルポートなださき	・ 小中高別の審査
		10/24（木）	竜操中学校	
12 月	読書感想文コンクール最終校正会議	12/9（月）	玉島高等学校	・ 「読書感想文集2024」最終校正
	読書感想文コンクール表彰式及び研修会	12/27（金）	岡山県立図書館	・ 表彰式
	第3回司書部会理事会及び研修会	12/16（月）	岡山朝日高等学校	・ 学校司書研修会について ・ 各地区情勢報告
1 月	第2回支部事務局長会議及び研修会	1/16（木）	玉島高等学校	・ 令和6年度事業中間報告 ・ 事務連絡 他
	（読書感想文コンクール審査会）休止	1/（ ）	小学校	
		1/（ ）	中学校	
		1/（ ）	高等学校	
2 月	代表理事会及び研修会	2/25（火）	玉島高等学校	・ 令和7年度総会提出議案の協議
	指定図書選定委員会	2/27（木）	岡山県立図書館	・ 令和7年度青少年読書感想文岡山県コンクールの県指定図書の選定
3 月	第4回司書部会理事会及び研修会	3/4（火）	岡山朝日高等学校	・ 学校司書研修会について ・ 学校司書実態調査について ・ 各地区情勢報告

第1回優良図書研究部会・絵本研究部会 5/16（木） 岡山県立図書館

・ 第1回目の立ち上げの会

令和6年度 岡山県学校図書館協議会支部協議会事業報告書

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
岡山	第1回 正・副会長研修会	5月16日(木)	岡山市立城東台小学校	・令和5年度事業報告、決算報告 令和6年度事業計画・予算案等	10名
	総会並びに第1回区別研修会		紙面総会	【総会】 ・令和5年度事業報告、決算報告 令和6年度事業計画・予算案 【区別研修会】 ・第1回区別研修会(情報交換・読書感想文コンクール審査会日程調整)	
	第1回 理事研修会	6月25日(火)	岡山市立城東台小学校	・第70回読書感想文コンクールに向けて	16名
	第70回岡山市読書感想文コンクール 第一次審査会並びに第2回区別研修会(区)	9月5日(木) 9月5日(木) 9月5日(木) 9月5日(木) 9月5日(木)	北1 岡山市立清輝小学校 北2 岡山市立中山中学校 中 岡山市立財田小学校 東 岡山市立開成小学校 南 岡山市立光南台中学校	・岡山市二次審査に出品する作品の選考、入賞者作品名簿の作成 ・各区の応募総数の確認、二次審査の審査員の推薦 ・研修テーマの話し合い	35名 23名 29名 25名 34名
	第70回岡山市読書感想文コンクール 第二次審査会(市)	9月17日(火)	岡山市立城東台小学校	・特選(県出品)、金賞、銀賞作品の選考	31名
	第2回理事会研修会	1月21日(火)	岡山市立城東台小学校	・読書感想文、賞状の仕分け、区別研修会のテーマについての確認	20名
	第3回区別研修会	2月20日(木)	北1 岡山市立清輝小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	32名
		2月7日(金)	北2 岡山市立中山中学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、今年度の新しい取組について	23名
		2月13日(木)	中 岡山市立財田小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	26名
		2月18日(火)	東 岡山市立開成小学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、読書週間の取組について	23名
	第3回 理事会研修会	2月7日(金)	南 岡山市立光南台中学校	・読書感想文集、賞状等の受け渡し、今年度の新しい取組について	35名
		2月25日(火)	岡山市立城東台小学校	・今年度の反省、次年度への引継ぎ	24名
	第2回 正・副会長会	3月6日(木)	岡山市立城東台小学校	・令和6年度事業報告、令和7年度事業計画案	13名
反省と課題 ・今年度から、区別研修会を本格的に実施した。区内の学校の活動や取組の情報交換の場になり、図書館教育活動改善のヒントにもつながり有意義なものになった。 ・研究に関しては、区別研修を進めていきたいが、マンネリ化に陥る可能性があるため、学校図書館の研究会等があるとそこに参加したり講師を呼んだりして見識を広めて行く必要もあると考えられる。 ・読書感想文の審査や賞状の配付等は特にトラブルもなく円滑に行われた。岡山支部は、私学や国・県立の小中学校があるので連絡を確実に取り合うのに苦労した。					
赤磐	小・中主任者会	5月2日(木)	赤磐市立桜が丘中学校	令和5年度事業報告・令和6年度事業計画等	18名
	読書感想文審査会及び研修会	9月12日(木)	赤磐市立笹岡小学校	読書感想文審査・読書感想文についての研修	17名
	反省と課題 読書感想文について、実際の作品をもとに読書感想文の書かせ方や感想文の在り方等良い研修の時となりました。				
和気	和気郡読書感想文コンクール審査会	9月13日(金)	本荘小学校	・和気郡読書感想文コンクール審査 ・情報交換 ・事務連絡	7名
	反省と課題 ・各校が夏休みの課題として企業コンクールに参加しなくなっている学校が増え、応募数が極度に減っている。 ・そのうえで、感想文に特化した指導などもできていないので、県へ上げられる作品が出てこない。				
備前	第1回 備前市学校図書館部会研修会	4月24日	西鶴山小学校	○授業公開 ○意見交換・諸連絡	5名
	第2回 備前市学校図書館部会研修会	5月2日	備前中学校	○令和5年度の事業報告、令和6年度の組織作り・事業計画作成	
	並びに司書部会研修会			○各校の情報交換	15名
	第3回 司書部会研修会	6月6日	伊里中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	14名
	第4回 司書部会研修会	8月1日・5日	吉永中学校など	○全体研修(蔵書点検について) ○連絡・情報交換	15名
	国語部会研修会並びに読書感想文審査	小学校の部 9月10日	西鶴山小学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	10名
		中学校の部 9月10日	備前中学校	○各校の読書指導情報交換、読書感想文の審査と反省	5名
	第5回 司書部会研修会	10月1日	西鶴山小学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	14名
	第6回 司書部会研修会	10月17～23日	日生中学校	○授業公開 ○意見交換 ○情報交換	14名
	第7回 司書部会研修会	2月19日	吉永中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	14名
	第8回 司書部会研修会	3月11日	伊里中学校	○全体研修 ○連絡・情報交換 ○部会に分かれての活動	14名
	※会場で「など」と書いてある場合は、ブロック開催。2日間、3カ所に分かれて開催しました。				
	反省と課題 (読書感想文審査会より) 小学校 ・特になし 中学校 ・中途半端な枚数(3.5枚～4枚と少し)の出品作品が多数見られた。校内審査の基準の厳格化を望む。 (司書部会より) 新採3年目の人が多い。15名の司書を3ブロックに分け、授業を公開したり、共同で蔵書点検を行った。ICTの活用について研修を行った。				
瀬戸内	岡山県青少年読書感想文コンクール瀬戸内支部 審査会・研修会	9月12日(木)	瀬戸内市立牛窓北小学校	読書感想文支部審査と審査に係る研修等	18名
	反省と課題 審査に係る研修を通して、読書感想文への取り組み方や指導の仕方について情報共有ができ、良い研修になった。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
玉 野	玉野市学校図書館協議会総会及び研修会	6月26日（水）	玉野市立宇野小学校	・令和5年度支部事業・決算等報告 ・令和6年度支部事業・予算等報告 ・読書感想文コンクール実施計画	23名
	司書研修会	7月25日（木）	ライフパーク倉敷	・実践発表 ・全体講座	23名
		8月21日（水）	玉野市立玉小学校	・実践発表に向けての研修	23名
	青少年読書感想文コンクール（小学校）	9月13日（金）	玉野市立宇野小学校	・小学校低・中・高学年で各額ごとに審査	17名
	支部審査会及び研修会（中学校）	9月19日（木）	玉野市立宇野中学校	・中学校各額ごとに審査	13名
	反省と課題 ・読書感想文コンクールの審査や、そのために必要な研修は効果的にできている。 ・学校司書研修会については、司書の資質能力の向上に寄与している。今年度も、学校DXの流れを受けて研修をオンライン実施で行うことが多く、効率的に行うことができた。				
加賀郡	・第1回研修会	9月10日（火）	大和小学校	・読書感想文の書き方指導等についての研修 ・読書感想文加賀支部出品作品の審査 ・令和7年度図書館研究大会に向けての研修	11名
	反省と課題 ・研修会では、感想文の書き方の研修や読書感想文の審査会など、充実した活動ができた。 ・令和7年度の研究発表の内容について情報共有や今後の進め方について意見交換ができた。				
倉 敷	学校図書館協議会第1回理事会	6月20日（木）	倉敷市立岡田小学校	協議	18名
	学校図書館協議会総会	6月28日（金）	書面開催	協議	187名
	学校図書館協議会第2回理事会	7月26日（金）	倉敷市立岡田小学校	協議	27名
	岡山県学校図書館研究大会（倉敷大会）	7月26日（金）	ライフパーク倉敷	研修	
	夏季研修会	8月23日（金）	県立図書館	研修	45名
	読書感想文コンクール倉敷地区審査（小）	9月2日（月）	倉敷市立菅生小・天城小	読書感想文審査	25名
	読書感想文コンクール水島地区審査（小）	9月2日（月）	倉敷市立連島東小	読書感想文審査	12名
	読書感想文コンクール児島地区審査（小）	9月2日（月）	倉敷市立郷内小	読書感想文審査	13名
	読書感想文コンクール玉島地区審査（小）	9月2日（月）	倉敷市立上成小	読書感想文審査	12名
	読書感想文コンクール真備・船穂地区審査（小）	9月5日（木）	倉敷市立岡田小学校	読書感想文審査	10名
	読書感想文コンクール倉敷支部中央審査（中）	9月10日（火）	ライフパーク倉敷	読書感想文審査	22名
	読書感想文コンクール倉敷支部中央審査（小）	9月13日（金）	倉敷市立岡田小学校	読書感想文審査	28名
	学校図書館協議会第3回理事会	2月4日（火）	倉敷市立岡田小学校	協議	25名
	反省と課題 総会は、昨年度と同様に書面開催としたが、特段大きな問題はなかった。研修会については、昨年度の反省から司書と図書館教育担当の教諭が一緒に研修する場を設け、岡山県立図書館の見学を行った。今年度、研究大会が倉敷で行われたこともあり、司書の取り組みをさらに紹介する場を設けても良かったのではという声もあった。来年度からも、行事の精選を行い、必要なことを必要な範囲で開催できるように、引き続き協議を進めていきたい。 読書感想文コンクールと読書感想文集については、業務がとても多いので、小中で業務を分担して行った。事務局の業務が精選され良かった。 昨年度同様、読書感想文コンクールの作品を返却しないことや読書感想文集1冊ずつに領収書がつくことなど、業務が軽減されるように改善されていてよかった。				
浅 口	学校図書館教育研究部会夏季研修会	8月7日（水）	浅口市立金光竹小学校	講話 「子どもたちの豊かな心を育む読み聞かせ～すすんで利用される学校図書をめざして～」 講師 つづきの絵本屋 都築照代氏	12名
	浅口支部読書感想文審査会	9月9日（月）	浅口市立金光竹小学校	支部審査 目録作成	25名
	反省と課題 夏季研修会では、つづきの絵本屋都築照代先生に「子どもたちの豊かな心を育む読み聞かせ」についてご講話いただいた。今を生きる子どもたちに合ったさまざまなジャンルの絵本を紹介していただいたり、読み聞かせのポイントを具体的に教えていただいたりした。学校での教育活動にすぐに生かせる充実した研修だった。司書の参加が少なかったため、各校への周知の工夫が必要である。 夏休み明けには、読書感想文コンクールを行った。新規に審査員になられた方が多かったこともあり審査後の目録作成などに関連して、支部審査に向けての各校での準備の方法など事前に確認・周知しておくことが大切であった。				
笠 岡	笠岡市教育研修所図書館教育研修部	8月21日（水）	笠岡市立金浦小学校	○図書室を活用した授業について	19名
	笠岡市学校図書館協議会・研修会	9月11日（水）	笠岡市立陶山小学校	○前年度事業報告・会計報告、読書感想文コンクール笠岡支部の審査について	4名
	読書感想文コンクール支部審査会	9月11日（水）	笠岡市立陶山小学校	○岡山県読書感想文コンクールの支部審査	18名
	反省と課題 ・笠岡市教育研修所図書館教育部会を8月21日（水）にもち、図書室を活用した授業について小中の職員が合同で話し合った。 ・読書感想文コンクールの支部審査については、9月11日（水）に実施した。				
小 田	小田郡学校図書館協議会（小学校）	5月2日（木）	矢掛町立矢掛小学校	・役員選出 ・今年度の年間計画について	9名
	小田郡学校図書館協議会総会並びに感想文審査会	9月10日（火）	矢掛町立山田小学校	・令和5年度事業報告 ・令和6年度事業計画 ・予算決算報告 ・読書感想文の支部審査会	12名
	反省と課題 ○例年同様の活動を行い、各校の読書推進に関わる取組が共有できた。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
井原	読書感想文支部審査	9月12日（木）	井原市立荏原小学校	・令和6年度の活動計画についての協議 ・井原市学校図書館協議会の役員紹介 ・支部審査会 小学校低学年の部 小学校中学年の部 小学校高学年の部 中学校の部	
		9月下旬～ 10月上旬	各校	・支部審査会での特選・入選の児童の表彰	
		9月20日（金）		・読書感想文集の注文とりまとめ → 県事務局に申し込み	
		1月23日（木） 1月下旬	各校	・読書感想文集・県出品の賞状等を各校に配付 ・県審査会での優秀賞・入選・佳作児童の表彰	
総社	図書館教育班会				
	第1回図書館教育班会	5月9日（木）	総社中央小学校	年間活動計画の作成	16名
	第2回図書館教育班会	6月20日（木）	総社市図書館	市図書館との連携・情報交換	12名
	第3回図書館教育班会	7月31日（水）	総社東中学校	新刊を含む児童書等の選書会	12名
	第4回図書館教育班会	9月12日（木）	総社中央小学校	岡山県青少年読書感想文コンクール総社支部審査会	22名
	学校司書部会				
	第1回学校司書部会	7月22日（月）	総社北小学校	旧維新小学校図書室にて図書資料選書	12名
	第2回学校司書部会	7月31日（水）	清音小学校	司書業務に関する「探調 TOOL-DX」使用について 第45回岡山県学校図書館研究協議会（倉敷大会）について	12名
	第3回学校司書部会	12月6日（金）	総社東中学校	OECによるシステム研修 読書週間の報告	12名
	第4回学校司書部会	2月7日（金）	昭和五つ星学園 義務教育学校 アクティブキャンパス	今年度の反省、来年度の計画	12名
	反省と課題 図書館教育班会 ・総社市図書館と情報交換を行い、連携を図ることができた。 ・読書感想文コンクールには多くの児童・生徒の応募があり、厳正なる審査によって入賞作品を選出することができた。 司書部会 ・昨年度改訂した総社市学校図書館業務マニュアル・システムマニュアルを有効に活用できるよう研修を継続している。 ・児童生徒の読書活動推進のため、情報交換や研修に努めた。 ・来年度も年4回は司書部会を行い、各校の連携を深め、有意義な研修を行ってきたい。				
高梁	研修会	6月27日（木）	高梁市図書館	○年間計画の作成・読書感想文コンクールについての説明	17人
	読書感想文コンクール審査会	9月10日（火）	高梁市図書館	○読書感想文コンクール審査	23人
	研修会（学校司書部会との合同研修会）	1月30日（木）	高梁総合文化会館	○講習 （講師）岡山県立図書館 サービス第一課総合サービス班 二熊恒平 総括主幹 （内容）学校図書館サービスと著作権の基礎 ○協議 ・部会ごとの情報交換等	22人
	反省と課題 ・第1回研修会は、県協議会からの指示の伝達を中心に行った。コンクールへの積極的参加を呼びかけるとともに、校内審査のあり方や各校から提出される出品目録の記入について、県協議会から指示されたことをもとに各校へ依頼をおこなった。本年度も6月中に行ったので、夏期休業の課題として取り組めるように早めに周知することができた。研修会の開催を6月中に設定する。 ・第2回研修会は読書感想文コンクールの審査会も兼ねた。 ・第1回研修会において、読書感想文コンクールについての様々な事項や各校での事前審査の基準を確認したことで、校内審査のあり方や書類の提出が適切であった。第1回研修会時に審査の担当学年を決めておいた。そのため、夏休み中に課題図書や指定図書を読んで審査に望むことができ、審査時間の短縮につながった。中学校の部では、今後の課題として、チャットGPT(AI機能)を使っている生徒が増え、オリジナルの作品かどうか判別しにくくなっていることがあった。 ・第3回研修会は、「学校図書館サービスと著作権の基礎」について研修した。各校からの事前質問や、日々の授業、学校行事での著作権について、豊富なFAQをもとに具体的に教えていただいた。また、著作権について知るための資料もたくさん紹介していただいた。研修の参加者だけでなく、各校で研修内容を共有できる大変有意義な会となった。				
新見	第1回新見市学校図書館教育担当者研修会	6月24日（月）	正田公民館	本年度の活動計画、読書感想文コンクールの概要説明、予算案の説明	22名
	新見市読書感想文支部審査	9月10日（火）	阿新教育会館	読書感想文コンクール支部審査会	22名
	新見市読書感想文集の原稿作成	12月	各校	支部審査で金賞、銀賞に選ばれた生徒の作品のデータ打ち	
	新見市読書感想文集の原稿校正	1月	事務局	新見市読書感想文集の編集及び発行	
	新見市読書感想文集の配布	2月20日（木）	事務局	新見市読書感想文集（第44集）を各小中学校・入賞者・図書館等に配付	
	第2回新見市学校図書館教育担当者研修会	2月20日（木）	阿新教育会館	本年度の活動の反省、新見市読書感想文集について、決算報告	22名
	反省と課題 ・選書や字数、表現や構成など、学年に応じた作品が書けるよう、指導していく必要がある。 ・応募票については、「岡山県用」のものを使用するよう、各学校でも周知徹底する。				

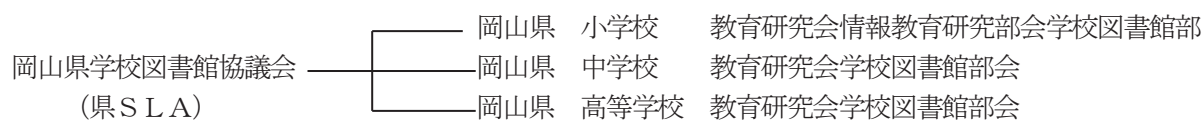
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
津 山	津山市学校図書館協議会 第1回総会・研修会	7月4日（火）	津山市役所東庁舎	R5年度活動報告・決算報告、R6年度組織体制・活動計画・予算計画についての協議	39人
	津山市読書感想文コンクール審査会	9月5日（木）	津山市役所東庁舎	津山市内の児童・生徒の読書感想文の審査	35人
	津山市学校図書館協議会 第2回総会・研修会	1月28日（火）	津山市役所東庁舎	活動の総括 来年度の研究活動の方向性や組織体制についての協議	40人程度
	反省と課題 ・仕事内容の精選を行うため、データで要項を送り、各校で印刷に変更した。 ・読書感想文に関する応募規定についての徹底を図りたい。				
苫 田	総会・研修会	6月24日（月）	鏡野町中央公民館	事業・決算報告、事業・予算計画、読書感想文コンクールについての説明、各校の図書館利用について交流	9名
	読書感想文審査会	9月9日（月）	鏡野町中央公民館	小・中読書感想文の審査	10名
	研修会	2月25日（火）	鏡野町中央公民館	今年度の事業反省、読書感想文審査についての反省、各校の読書活動推進の取組を情報交流	8名
	反省と課題 例年通り読書感想文の審査と各校の取り組みの交流が行えた。（2月25日に今年度の事業反省をする予定。） 県でも負担削減に取り組んでくださっていて、とてもありがたい。支部やブロックでも読書活動の推進と負担削減のバランスを考えながら見直しを進めている。県大会についてもさらに見直しに行くことが課題であると思う。				
勝 田	勝田郡学校図書館協議会総会、研修会	7月11日（木）	勝間田小学校	令和5年度事業報告並びに決算報告 令和6年度事業計画並びに予算案 県学校図書館協議会報告 読書感想文審査会について	7名
	勝田郡読書感想文審査会（小学校）	9月5日（木）	勝間田小学校	読書感想文審査	5名
	勝田郡読書感想文審査会（中学校）	9月13日（金）	勝央中学校	読書感想文審査	5名
	反省と課題 ○読書感想文審査会を目標に、各校で読書感想文に取り組むことができた。 ○読書感想文審査会について（小学校審査会） ・低学年の感想文に大人の字があった。 ・誤字が多いので、最低限見直しをしてから提出してほしい。 ・常体、敬体が混ざった文があったり、分量が8割に満たない感想文があったりした。 ・感想文の内容に沿ったオリジナルのタイトルをつけるとよい。 ・物語のあらすじと自分の考えがずれていたり、話が飛躍したりする作文が多かった。 ・指定図書、課題図書は良書であるため、児童に広めて、児童が良い本に触れる機会を増やす。 ・自分で推敲する機会を持ち、読み直す力もつけてほしい。 （中学校審査会） ・課題図書や指定図書はそれぞれ数が少ないので毎年課題として挙がっている。 ・各校で事前に読んできているので審査が早いのが、自由課題の選書が難しい。 ・パターン化されているので、書き方の指導も授業で取り入れていく。 ・チャットGPTで書いたような感想文があったので対応を考える必要がある。				
久 米	第1回岡山県事務局長会及び研修会	6月11日（火）	県立玉島高等学校	事務連絡	1名
	久米郡学校図書館協議会総会・研修会	7月中旬	書面にて	令和5年度事業報告・決算報告、令和6年度事業計画・予算案審議、読書感想文の応募についての確認	12名
	久米郡読書感想文審査会	9月20日（金）	美咲町生涯学習センター	読書感想文支部審査（小学校、中学校）	12名
	第2回岡山県事務局長会及び研修会	1月16日（木）	県立玉島高等学校	事務連絡	1名
	反省と課題 ・読書感想文の支部審査会に向けて、校内の審査の段階で誤字脱字・名前・類似作品のチェック等を行ってもらうよう周知したい。				
真 庭	総会及び研修会	7月5日（金）	久世公民館	前年度事業報告、今年度役員選出、事業計画、予算案協議	28人
	読書感想文支部審査会	9月10日（火）	久世公民館	読書感想文の審査、県出品作品の決定、文集注文についての説明	28人
	反省と課題 真庭支部では、事務局の仕事をブロックごとの持ち回りとしている。仕事内容の細かな引き継ぎが難しい部分はあるが、ブロック内で担当校（審査会・会計）を分担し、効率的に作業を進めることができた。 各校の担当者や読書感想文の出品者名簿はサーバー内のファイルに直接入力してもらうようにし、効率的に事務局業務を行えた。 賞状は、データを活用して各学校で印刷してもらっているため、事務局の負担・各校での記名の負担が減っている。				
美作・西栗倉	支部総会・研修会	6月21日（金）	書面開催		
	支部読書感想文審査会・研修会（中学校）	9月12日（木）	美作市立江見小学校	読書感想文審査（中学校の部）	6名
	支部読書感想文審査会・研修会（小学校）	9月17日（火）	美作市立江見小学校	読書感想文審査（小学校の部）	9名
	反省と課題 ・支部総会は、昨年度に引き続き書面開催としたが、問題なく一年間事業を実施することができた。 ・読書感想文の応募が減少傾向にある。				

支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
備前	役員会・総会	6月14日（金）	岡山大安寺中等教育学校	(1) 令和5年度事業報告・決算報告について (2) 令和6年度役員案・活動方針・事業計画案・予算案について (3) 役員校・事務局校・読書感想文審査校・研究協議会発表校のローテーションについて	(役員会) 14名 (総会) 25名 26名
	第1回 研究会	10月10日（木）	岡山大安寺中等教育学校	(1) 研究発表：「7科の特性を活かした図書委員会活動」 （発表者：岡山県立岡山工業高等学校 教諭 福江 博之 先生） (2) 講演：「使える図書館」とワークショップ （講師：ALL HEROs 合同会社 代表 中山 芳一 氏）	27名
	第1回 司書部会研修会（兼合同研修会）	4月25日（木）	岡山県立図書館	(1) 初任者研修（希望者） (2) 合同連絡 (3) 支部別協議・連絡・サポート校交流・学校図書館基本情報アンケートとりまとめ	26名
	第2回 司書部会研修会（兼合同研修会）	7月2日（火）	岡山県立図書館	(1) 初任者研修（A）「県立図書館資料の活用法（展示の工夫 編）」 合同研修（B）「学校に学校図書館をアピールしよう」 (2) 合同連絡 (3) 支部別協議・連絡・サポート校交流・でーれー BOOKS 候補本内覧	26名
	第3回 司書部会研修会（兼合同研修会）	12月5日（木）	東岡山工業高等学校	(1) 初任者研修・備前支部研修会「図書館や本を広くアピールするための取り組み」 (2) 支部別協議・連絡・サポート交流 (3) 合同研修「図書館をもっと面白くする SNS 活用講座&ワークショップ」 大崎龍史 氏（瀬戸内サニー株式会社代表取締役）	26名
	第4回 司書部会研修会	3月6日（木）	岡山県立図書館	(4) 合同連絡・県立図書館より連絡 (1) 研修「次、なにを読む？」～読書チャートを作ろう～ (2) 録音「令和7年度岡山県学校図書館協議会司書部会研修会（オンライン大会）に向けて」 (3) 協議・連絡・情報交換	約25名
	反省と課題 総会、研究会、司書部会の研修会を予定通り実施しました。夏に実施していた研究会は10月に実施し、多くの先生方に参加していただきました。研修ではワークショップも交えながら先生方が自校の図書館の取り組みについて意見交流を行うことができました。課題としては、今後も多くの先生方が研究会に参加できるように日程を調整したり、研究内容も講演会だけではなく先生方がより意見交流ができたりする場となるよう工夫が必要だと感じました。また、出欠の連絡についてもなかなか締め切りにもそわわないことがあったので、こまめに連絡をとる必要があると感じました。今後も生徒にとって有意義な場を多く提供していけるような図書館活動を継続していきます。				
備中	第1回 司書部会研修会（兼合同研修会）	4月25日（木）	岡山県立図書館	(1) 初任者研修（希望者のみ）（午前）、合同連絡 (2) 支部協議・連絡 (3) サポート校交流 活動紹介と相談「各校の学校図書館から」／資料研究「私のすすめるこの一冊」 他	27名
	第1回役員会	6月21日（金）	倉敷工業高校	(1) 令和5年度事業報告及び会計報告 (2) 令和6年度事業計画（案）及び予算（案） (3) 支部総会・研究協議会について	6名
	総会	6月21日（金）	倉敷工業高校	(1) 報告事項 ・令和5年度事業報告及び会計報告 ・令和6・7年度役員紹介 (2) 協議事項 ・令和6年度事業計画（案）及び予算（案）	30名
	第2回 司書部会研修会（兼合同研修会）	7月2日（火）	岡山県立図書館	(1) 合同研修、合同連絡 初任者研修「県立図書館資料の活用法（展示の工夫編）」／研修B：「学校に学校図書館をアピールしよう」 (2) 協議、連絡、報告 (3) サポート校交流 活動紹介と相談「各校の学校図書館から」／資料研究「私のすすめるこの一冊」 他	21名
	第3回 司書部会研修会	9月19日（火）	倉敷高校 清心女子高校	(1) 研修（午前）ディスプレイ研修①②③「貧乏工作は図書館をステキにできるか？」 倉敷高校、清心女子高校にてディスプレイの実践的な研修を行った。 (2) 報告・協議・連絡	20名
	第4回 司書部会研修会（兼合同研修会）	12月5日（木）	東岡山工業高等学校	(1) 初任者研修（希望者のみ）（午前）、合同連絡 (2) 報告・協議・連絡 (3) サポート校交流 活動紹介と相談「各校の学校図書館から」／資料研究「私のすすめるこの一冊」 他 (4) 合同研修「図書館をもっと面白くする SNS 活用講座&ワークショップ」 講師：大崎龍史氏	24名
	第5回 司書部会研修会	2月13日（木）	倉敷青陵高校	(1) 報告・協議・連絡 (2) 研修 ①第56回岡山県学校図書館研究大会（勝央大会）予行 「岡山の高校図書がつながる！でーれー BOOKS のこれまでとこれから」 発表者：水島工業高校・中村司書／②各校の取組紹介 (3) サポート校交流 活動紹介と相談「各校の学校図書館から」／資料研究「私のすすめるこの一冊」 他	23名
	第2回役員会	3月	書面開催	(1) 令和6年度事業報告及び会計報告 (2) 令和7年度支部総会・研究協議会について	
	図書委員会交流会	実施せず			
	反省と課題 ○ 令和6年度から備中支部事務局校が変更になりましたが、6月の役員会、総会及び年間5回の司書部会研修会を何とか無事に実施することができました。 来年度は図書委員会交流会の実施が検討課題です。				

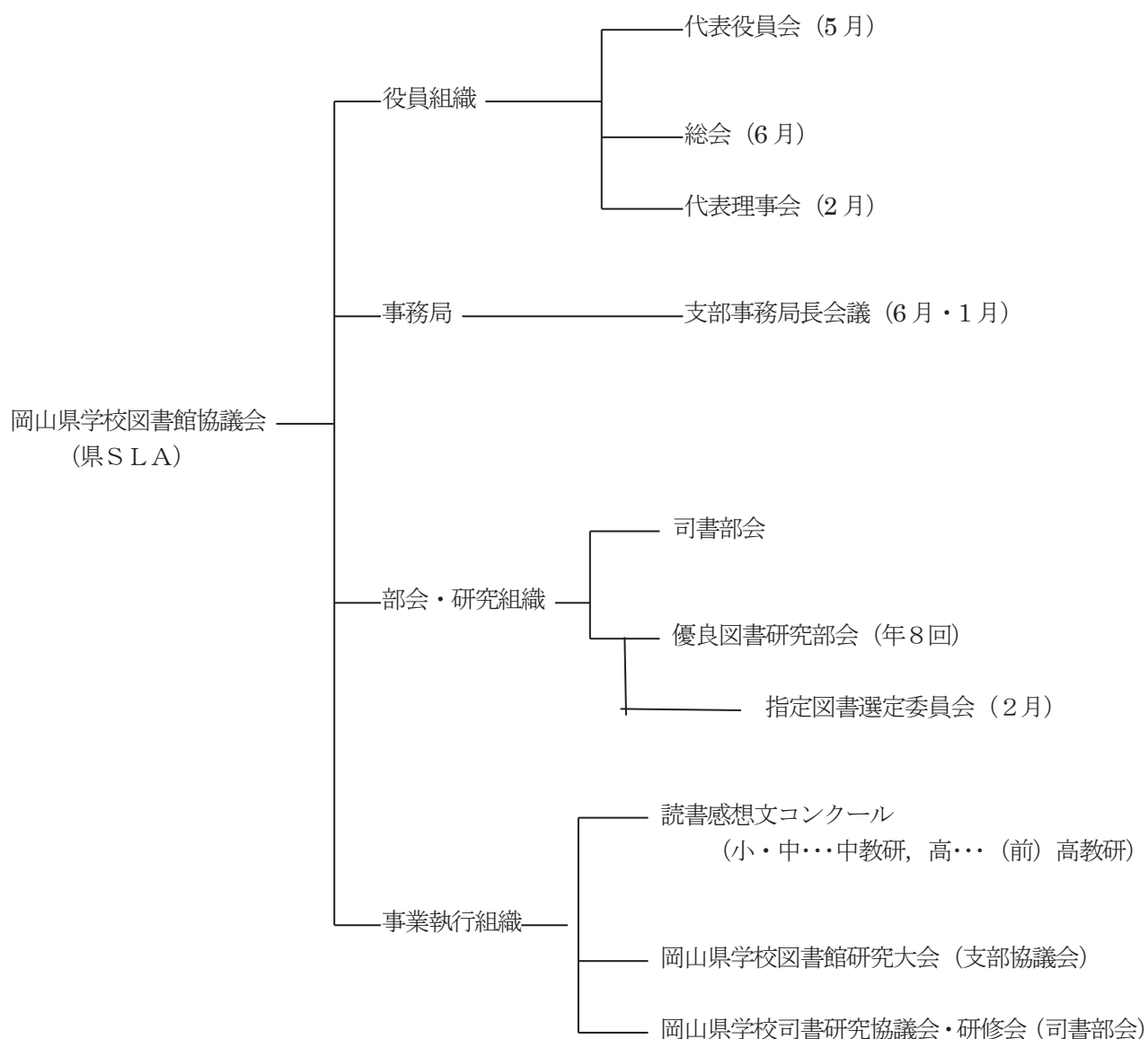
支部名	実施事業名	実施期日	実施会場	内 容	参加人数
美作	第1回司書部会研修会（美作支部）	4月25日（木）	岡山県立図書館	令和6年度活動計画 協議連絡（令和6年度美作地区図書委員会交流会、令和7年度県SLA大会）	8名
	第1回美作支部役員会・総会	5月16日（木）	津山高校	令和5年度事業報告、令和5年度会計決算報告 協議連絡（令和6年度事業計画案、令和6年度予算案、令和6年度美作地区図書委員会交流会案）	役員会7名 総会12名
	第2回美作支部役員会（美作支部）	7月11日（木）	津山高校	協議連絡（第2回研究協議会の研修内容、第14回美作地区高校生読後感想文コンクール）	8名
	第2回司書部会研修会	7月2日（火）	岡山県立図書館	合同研修「学校に学校図書館をアピールしよう」、初任者研修「県立図書館資料の活用」 協議連絡（令和6年度美作地区図書委員会交流会、令和7年度県SLA大会）	9名
	図書委員会交流会	8月7日（木）	津山工業高校	(1) 各校委員会活動の紹介 (2) グループワーク:アイスブレイク・ブックトーク・図書館クイズ・フリートーク	生徒26名 教員18名
	第3回司書部会研修会（美作支部）	12月5日（火）	東岡山工業高校	美作地区図書委員会交流会の総括、サポート校交流 協議連絡（津山市立図書館展示、第4回研修、令和7年度美作大会） 合同研修「図書館をもっと面白くするSNS活用講座&ワークショップ」 大崎龍史（瀬戸内サニー（株）代表取締役）	8名
	第14回美作地区高校生読後感想文コンクール表彰式	12月9日（月）	津山高校	担当校講評、美作地区高校生読後感想文コンクール表彰、最優秀賞生徒による受賞の言葉	生徒6名 教員11名
	第2回美作支部総会・研究協議会	12月9日（月）	津山高校	協議連絡（令和7年度事業計画案、令和7年度図書委員会交流会、第15回美作地区高校生読後感想文コンクール） 研修：講演「高校生への本の魅力の伝え方」、「参加者との交流：困っていること、悩みごとなど」 講師 高見京子先生（全国SLA学校図書館スーパーバイザー）	11名
	第4回司書部会研修会（美作支部）	2月14日（金）	津山高校	協議連絡（令和6年度活動総括、令和7年度活動計画、令和7年度図書委員会交流会）	9名
	反省と課題 ① 図書委員会交流会：今年度は美作地区内の7校・26名の生徒が参加し、津山工業高校で各校の図書館・図書委員会活動の紹介と、グループワークにて、自己紹介ゲーム・各自持参したおすすめ本とPOPを使ったブックトーク・図書館クイズ・フリートークを行った。参加者からは、最初に自己紹介ゲームを取り入れたことで生徒たちの緊張がほぐれいいスタートが切れたことや、他校の取り組みを知ることができ勉強になった等の良かった点が挙げられた。また、司書からは、開始前に早めに来た生徒たちの対応等でバタバタしてしまい準備時間が足りなかったのを、事前の打ち合わせや準備時間を十分取る必要があったとの反省点が挙げられた。これについては、来年度に向けた改善点として検討していきたい。委員会交流会で作成した各校の学校紹介と本のPOPは、後日各校図書館で展示を行う際に活用したほか、津山市立図書館での展示に活用した。 ② 支部会研修会：今年度の研修会は高見京子先生（全国SLA学校図書館スーパーバイザー）を講師としてお招きし、「高校生への本の魅力の伝え方」、「参加者との交流：困っていること、悩み相談」というテーマで講演会を実施した。講演では、高校生の読書への意識、読書率、高校生が置かれた環境や現状を理解することの重要性を示しながら、「高校生と本を繋ぐ」ために学校図書館にはどのような取組ができるのかについてお話いただいた。また、学校図書館を効果的に運営していく中で、学校司書や図書主任が抱える悩みや質問に対して、ご自身の経験から様々な対応策をご紹介いただき、高校生の読書体験や学習活動を、学校図書館がどのようにサポートしていくことができるのかを改めて考える貴重な機会となった。				

岡山県学校図書館協議会組織図

1. 構成組織



2. 組織図



岡山県学校図書館協議会規約

第1条 本会は、岡山県学校図書館協議会という。

第2条 本会は、事務局を会長在任の学校内におく。

第3条 本会は、県下小・中・高等学校の学校図書館相互の連絡とその充実、発展をはかり、本県教育の推進に寄与することを目的とする。

第4条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 県下学校図書館相互の連絡提携、情報交換
- (2) 学校図書館運営に関する研究会、講習会、展示会等の開催。
- (3) 学校図書館教育の研究
- (4) 読書指導の研究
- (5) 学校司書の研修と身分待遇の改善
- (6) 絵本・優良図書の研究
- (7) その他

2. 第1項(2)の事業の推進、及び(3)(4)の事業の援助を行うため、研究部会を設ける。

研究部会は、特に必要のない場合、適宜活動を休止することができる。

3. 第1項(5)の事業を行うため、司書部会を設ける。司書部会関することは、別に規定を定める。

4. 第1項(6)の事業を行うため、絵本研究部会、優良図書研究部会、ニューメディア研究部会、読書ノート研究部会を設ける。それぞれの部会で必要な規定は、別に定める。

第5条 本会は、岡山県小学校教育研究会情報教育部会学校図書館部（以下「小教研」と略す）・岡山県中学校教育研究会学校図書館部会（以下「中教研」と略す）・岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会（以下「高教研」と略す）によって構成する。

第6条 本会加入の小・中学校においては郡市ごとに、高等学校においては地区（備前・備中・美作）ごとに、支部協議会を設ける。

2. 支部協議会に会長を置く。また、必要に応じて副会長を置くことができる。

3. 支部協議会に支部事務局を設け、支部事務局長を置く。

4. 本会は、年に数回、支部事務局長会議を開催し、必要な書類の配布、事務連絡事項の伝達を行う。

5. その他、支部協議会に関する規定は、各支部協議会で適宜決める。

第7条 本会は、社団法人全国学校図書館協議会の賛助会員となる。

2. 本会の会長及び事務局長は、社団法人全国学校図書館協議会の正会員となる。

第8条 本会に次の役員を置き、任期は2カ年とする。ただし再任を妨げない。また、補欠役員の任期は、前任者の残留期間とする。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 代表理事
- (4) 理事
- (5) 監事

2. 役員の選出は次のとおりとする。

- (1) 会長は、高等学校長の中から選出される。
- (2) 副会長は、会長にならなかった小教研情報教育部会副会長（学校図書館部担当）、中教研・高教研の各部会長をもって充てる。
- (3) 代表理事は、小教研情報教育部会副会長（学校図書館部担当）・常任理事（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・副会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。
- (4) 理事は、代表理事及び各支部協議会の会長・副会長をもって充てる。
- (5) 監事は、原則として事務局校の所在する支部内で、小教研・中教研から1名、高教研から1名選出する。

3. 本会の最小限の役員組織として、代表役員会を設ける。代表役員は、小教研情報教育部会副会長（学校図書館部担当）・事務局員（学校図書館部担当1名）、中教研・高教研の各部会長・事務局長、及び司書部会長をもって充てる。

4. 以上の役員については、年度当初の新旧代表役員会で選出され、総会において承認を得るものとする。但し、代表理事については、総会において決定・承認されるものとする。

第9条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、会を代表し会務を総括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは会務を代理する。
- (3) 代表理事は、会務の重要事項を協議し決定する。

また、代表役員会で仮決定した事項について協議し、決定する。

(4) 理事は、会務全般について協議し、代表理事会での決定を承認する。また、年度当初に新旧代表役員会で仮決定した事項を決定する。

(5) 監事は、会計を監査する。

(6) 代表役員は、本会の最小限の役員組織として、緊急を要する事項について協議し、仮決定する。年度当初に開催する新旧代表役員会では、役員の選出等重要事項を仮決定する。

第10条 本会の、総会・代表理事会・代表役員会は毎年1回以上開催する。総会は、理事会をもってこれに代えることができる。

第11条 事務局には、事務局長、事務局次長、参事、事務職員等をおき、会務を処理する。

第12条 本会は、役員会の推薦により顧問・参与・賛助員を置くことができる。

第13条 本会の経費は、構成団体の拠出金・寄付金をもってあてる。

第14条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規約施行は昭和25年から[推定])

… (中略) …

平成 8年 6月 4日 一部改正

平成11年 6月 3日 一部改正

平成14年 5月30日 一部改正

平成17年 6月 2日 一部改正

令和 6年 6月 6日 一部改正

岡山県学校図書館協議会司書部会会則

第1条 この部会は、岡山県学校図書館協議会規約第4条に基づいて設けられ、岡山県学校図書館協議会司書部会と称する。

第2条 この部会の事務局は、岡山県学校図書館協議会司書部会長在任の学校内におく。

第3条 この部会は、岡山県下の学校司書の資質向上と専門性の追求をめざし、学校図書館の充実と発展に資することを目的とする。

第4条 この部会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 「研究協議会」と「研修会」の計画立案・開催と参加
- (2) 各地域で行われる学校図書館研修会に対する情報提供や意見交流
- (3) 優れた実践の掘り起こしと、研究実践を広めるための活動
- (4) 学校司書の配置増と安定した雇用の確立のための活動

第5条 この部会は、岡山県下の小・中・高等学校図書館に勤務する学校司書及びこれに準ずる者を会員として構成する。

第6条 この部会は、次の役員をおく。

- (1) 部会長 1名
部会を代表し、部会の運営にあたる。また、会計事務も担当する。
- (2) 副部会長 若干名
部会長を補佐し、部会長に事故のあるときにはこれに代わる。
- (3) 理事 若干名
理事会を構成し、会務の重要事項を審議する。また、地区を代表して、部会との連絡と地区の運営にあたる。
- (4) 監事 2名
会計事務を監査し、総会に報告する。

第7条 役員は、次の方法によって定める。

- (1) 役員は、総会において選出する。任期途中において退任のときは部会長が理事にはからって補充し、総会の承認を得る。
- (2) 部会長は、会員全体の中から選出する。
- (3) 副部会長は、校種別、地区別に選出する。
- (4) 理事は、校種別、地区別に選出する。
- (5) 監事は、原則として理事経験者の中から選出する。

第8条 役員の任期は2年とし、再任は妨げない。欠員によって補充された役員の任期は、前役員の残任期間とする。

第9条 この部会は、年1回総会を開催する。開催が困難な場合には、会員の出席に替わる方法として臨時理事会兼総会を開催することができる。なお、理事会が必要と認めた場合、又は会員の3分の1以上から請求のあった時は、臨時総会を開催しなければならない。

2. 総会は、会員の過半数の出席（オンラインによる出席・出席者に議決を委任した会員を含む）をもって成立する。議事は出席者の過半数で決するものとする。
3. 総会に附議しなければならない事項は次のとおりとする。
 - ① 会則の改正
 - ② 役員の選出
 - ③ 事業計画並びに事業報告
 - ④ 予算案並びに決算の承認
 - ⑤ その他重要な事項

第10条 この部会は年3回理事会を開催する。なお、理事の3分の1以上から請求のあった時は、臨時理事会を開催しなければならない。

2. 理事会は、役員の過半数の出席をもって成立する。
3. 理事会では、各地区の情勢報告・研修報告などの情報交換を行うほか、総会の運営に関する事項、総会に附議する議題、研究協議会・研修会に関する事項等、司書部会に関する重要な事項を審議する。
4. 理事会は、次の事項について決議することができる。緊急を要する場合で会議開催が不可能な場合は、文書持ち回りにより決議を行う。ただし、これらの決定については、次の総会において承認を得なければならない。
 - ① 役員の補充
 - ② その他司書部会として緊急に決定が必要な事項

第11条 本会の経費は、会費・助成金及びその他の収入をもって充てる。ただし、当分の間会費は徴収しない。なお、研修に要する実費は、そのつど徴収することができる。

2. 会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

本会則は、昭和50年4月1日から施行する。

平成15年7月24日 一部改正

平成18年7月26日 一部改正

令和4年7月28日 一部改正

令和6年7月25日 一部改正

岡山県学校図書館協議会 74年の歩み（略年表）

西暦	年号	研究集録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1950	昭和25		(1) 東京				県SLA発足	尾野作次郎 (岡山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1951	26		(2) 京都					尾野作次郎 (岡山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1952	27		(3) 小田原			総会 久米井 東	『岡山学校図書館』 創刊9月20日付	尾野作次郎 (岡山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1953	28		(4) 大分			総会 坂本 一郎	司書講習 (岡山大学)	尾野作次郎 (岡山)	大土井淑夫 (清輝) 下山 練 (津山中) 神崎
1954	29		(5) 仙台			総会 尾野作次郎	司書教諭講習 (大阪学芸大学) 9名参加	尾野作次郎 (岡山)	大土井淑夫 (清輝) 神崎 水島 進 (戸井中)
1955	30		(6) 徳島		(1) 西大寺, 倉敷, 津山	松尾弥太郎	学校図書館去施行	尾野作次郎 (岡山)	
1956	31		(7) 宇都宮		(2) 岡山, 倉敷, 津山	佐野 友彦		内藤 一人 (岡山)	
1957	32		(8) 札幌		(3) 岡山	松尾 佐野 鈴木 芦谷		内藤 一人 (岡山)	
1958	33		(9) 岡山		(4) 岡山	深川 恒喜		内藤 一人 (岡山)	
1959	34		(10) 東京	(1) 萩	(5) 和気, 吉備, 英田	白井 吉見 佐野 友彦	司書教諭講習 (岡山大学) 10周年	内藤 一人 (岡山)	
1960	35		(11) 大阪		(6) 児島, 笠岡, 苫田	鈴木 英二		内藤 一人 (岡山)	高祖 忠直 室山 三義 三谷 堅 (津 一)
1961	36		(12) 新潟	(2) 広島	(7) 赤磐, 上房, 久米	松尾弥太郎		内藤 一人 (岡山)	高祖 忠直 (深 柁) 室山 三義 (倉 東) 宮野辰右衛門
1962	37		(13) 松山		(8) 岡山	裏田 武夫		内藤 一人 (岡山)	
1963	38			(3) 松江	(9) 玉野, 井原, 真庭	鈴木 英二 松尾弥太郎		内藤 一人 (岡山)	柴部 武士 宮野辰右衛門 (岡北) 井上弥太郎
1964	39		(14) 成田		(10) 御津, 浅口, 勝山 (奈義)	佐野 友彦		内藤 一人 (岡山)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田) 川部 濟
1965	40	2号		(4) 倉吉	(11) 児島, 新見, 阿哲, 英田	松尾弥太郎		内藤 一人 (岡山)	
1966	41	3号	(15) 鹿兒島		(12) 津山	松尾弥太郎		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1967	42	4号		(5) 津山	(13) 津山	木村 毅		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 神原 利一 (桑 田)
1968	43	5号	(16) 名古屋		(14) 矢掛	野地 潤家		川端 清 (大安寺)	三島 一夫 (深 柁) 梶原良太郎 (岡 北)
1969	44	6号		(6) 防府	(15) 岡山	相島 敏夫	20周年	板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1970	45	7号	(17) 山形		(16) 成羽			板谷 二郎 (大安寺)	林 幸彦 (出 石) 広江 利夫 (操 南)
1971	46	8号		(7) 大竹	(17) 津山	岩田 斉		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (財 田) 広江 利夫 (操 南)
1972	47	9号	(18) 兵庫		(18) 玉野	芦谷 清		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 広江 利夫 (丸之内)
1973	48	10号		(8) 出雲	(19) 邑久	石森 延男		桐野 事雄 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1974	49	11号	(19) 東京		(20) 北房	谷川 徹三		金谷 達夫 (大安寺)	小林 元 (旭 東) 坪井 隆二 (石井中)
1975	50	12号		(9) 鳥取	(21) 苫田	滑川 道夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 坪井 隆二 (石井中)
1976	51	13号	(20) 岐阜		(22) 倉敷	戸川 幸夫		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1977	52	14号		(10) 倉敷	(23) 倉敷	外山滋比古		金谷 達夫 (大安寺)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞						
	大原 利貞						
岩本 俊一 近藤 節正 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛					
岩本 俊一 江口 浩三	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
竹内亥三美	大原 利貞	影山 剛 内田 暁郎					
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞						
	大原 利貞					(1) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞					(2) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(3) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(4) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞					(5) 岡山県学校 司書会総会	
竹内亥三美 富山大三郎	大原 利貞	藤森 賢一				(6) 岡山県学校 司書会総会	
	大原 利貞	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
	大熊 圭祐	鳥越 義親	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 竹内 虎男	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫	神原 利一	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	神原 利一 川合 四良	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	三島 一夫 渡辺 武士	榎原良太郎 末平 雅夫	川端 清 佐藤 稔		
蒲田 欣二 平坂 俱通	清野 有司	幾田 尚	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 相谷 道夫	板谷 二郎 横田 恭治		
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	林 幸彦 渡辺 武士	広江 利夫 吉富 進	板谷 二郎 横田 恭治	(1) 岡 山	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 高田 哲夫	(2) 玉 野	安原 みどり
蒲田 欣二 新海 章吾	幾田 尚	木村 祐造	小林 元 渡辺 武士	広江 利夫 高尾 弘志	桐野 事雄 田口 重俊	(3) 倉 敷	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	堤 護	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	桐野 事雄 田口 重俊	(4) 津 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	小林 元 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 田口 重俊	(5) 岡 山	安原 みどり
山崎 蕃 新海 章吾	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 渡辺 武士	坪井 隆二 黒住 郁雄	金谷 達夫 河村 金二	(6) 玉 野	安原 みどり
須和田秀一 山崎 蕃	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 相谷 道男	金谷 達夫 徳永 優	(7) 倉 敷	片山 峰子
須和田秀一 藤原 康宏	木村 祐造	松本 功	赤木 庚 山名 徳則	松本 猛 末平 雅夫	金谷 達夫 徳永 優	(8) 津 山	片山 峰子

西暦	年号	研究集録	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
1978	昭和53	15号	(21) 佐 賀		(24) 瀬 戸	三木 卓	表章式 (感想文)	村井 董直 (芳泉)	赤木 庚 (妹尾小) 松本 猛 (京山中)
1979	54	16号		(11) 下 関	(25) 岡 山	金田一春彦	30周年	村井 董直 (芳泉)	新井 正志 (牧石小) 森安 萌 (旭 中)
1980	55	17号	(22) 盛 岡		(26) 新 見	松島 栄一		宮脇 律 (芳泉)	石井 汎 (芳泉小) 森安 萌 (旭 中)
1981	56	18号		(12) 広 島	(27) 久 米	斉藤 実		宮脇 律 (芳泉)	石井 汎 (芳泉小) 森安 萌 (旭 中)
1982	57	19号	(23) 伊 勢		(28) 和 気	灰谷健次郎		宮脇 律 (芳泉)	野上 賢二 (竜之口小) 森安 萌 (旭 中)
1983	58	20号		(13) 浜 田	(29) 総 社	松谷みよ子		宮脇 律 (芳泉)	野上 賢二 (竜之口小) 森安 萌 (福南中)
1984	59	21号	(24) 山 口		(30) 高 梁	高木 敏子		宮脇 律 (芳泉)	渡辺 武士 (庄内小) 森安 萌 (福南中)
1985	60	22号		(14) 高 梁	(31) 高 梁 (兼中国)	松山 善三		榎野 昭輝 (芳泉)	渡辺 武士 (庄内小) 黒住 郁雄 (足守中)
1986	61	23号	(25) 那 覇		(32) 真 庭	倉本 聰		西田 譲 (一宮)	森川 鐵也 (馬屋上小) 村田 重臣 (石井中)
1987	62	24号		(15) 米 子	(33) 笠 岡	宮城まり子		西田 譲 (一宮)	古川 正治 (加茂小) 岡島 将 (興隆中)
1988	63	25号	(26) 札 幌		(34) 備 前	矢口 高雄		杉山 定雄 (一宮)	田代 尚夫 (平島小) 岡島 将 (興隆中)
1989	平成元	26号		(16) 宇 部	(35) 岡 山	河合 雅雄	40周年	幾田 尚 (西大寺)	長安早智子 (芳泉小) 岡島 将 (福南中)
1990	2	27号	(27) 松 江		(36) 新 見	柴田 一		幾田 尚 (西大寺)	森谷 浩平 (野谷小) 岡島 将 (福南中)
1991	3	28号		(17) 広 島	(37) 勝 田	岩崎 京子	第11回学校司書全国 研究集会 (於岡山)	坪井 克己 (西大寺)	森谷 浩平 (野谷小) 岡島 将 (福南中)
1992	4	29号	(28) 福 岡		(38) 倉 敷	福田襄之介		皆木 徹典 (和気閑谷)	森谷 浩平 (野谷小) 大月 要 (丸之内中)
1993	5	30号		(18) 益 田	(39) 御 津	宮地 暢夫		皆木 徹典 (和気閑谷)	長崎 幡子 (加茂小) 平田喜世子 (中山中)
1994	6	31号	(29) 秋 田		(40) 川 上	富永 一朗		中野 宏 (倉敷古城池)	瀬戸川 宏 (宇野小) 白神 幸世 (京山中)
1995	7	32号		(19) 鳥 取				中野 宏 (倉敷古城池)	瀬戸川 宏 (宇野小) 赤木 久児 (藤田中)
1996	8	33号	(30) 埼 玉		(41) 英 田	あさのあつこ		中野 宏 (倉敷古城池)	亀高 嘉彦 (梁砥小) 赤木 久児 (藤田中)
1997	9	34号		(20) 岡 山	(42) 総社, 真備 (兼中国)	阿刀田 高		大山 晋右 (倉敷古城池)	亀高 嘉彦 (梁砥小) 赤木 久児 (藤田中)
1998	10	35号	(31) 金 沢					鴨頭 脩 (倉敷青陵)	菱川 成雄 (高島小) 香川 璋子 (高松中)
1999	11	36号		(21) 岩 国	(43) 岡 山	塩見 昇	50周年	鴨頭 脩 (倉敷青陵)	菱川 成雄 (高島小) 香川 璋子 (高松中)
2000	12	37号	(32) 奈 良		(44) 新見・ 阿哲	灰谷健次郎		川井章三郎 (倉敷南)	菱川 成雄 (城東台小) 香川 璋子 (高松中)
2001	13	38号		(22) 広 島				山根 健 (倉敷南)	菱川 成雄 (城東台小) 綿谷 佳男 (難崎中)
2002	14	39号	(33) 横 浜		(45) 津 山	後藤 竜二		大嶋 俊宣 (倉敷天城)	料治 育子 (伊島小) 綿谷 佳男 (難崎中)
2003	15	40号		(23) 出 雲				大嶋 俊宣 (倉敷天城)	料治 育子 (伊島小) 綿谷 佳男 (福南中)
2004	16	41号	(34) ひろくま		(46) 井原 後月	佐々木正美		高槻 健 (倉敷古城池)	坪井由紀子 (政田小) 綿谷 佳男 (福南中)
2005	17	42号		(24) 倉 吉				高槻 健 (倉敷古城池)	坪井由紀子 (政田小) 綿谷 佳男 (福南中)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高教研	県司書大会	県司書部会長
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	赤木 庚 山名 徳則	森安 萌 相谷 道男	村井 董直 岡 博	(9) 岡 山	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	新井 正志 三宅 敏文	森安 萌 相谷 道男	村井 董直 岡 博	(10) 玉 野	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	柴岡 元	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 岡 博	(11) 倉 敷	片山 峰子
国塩 輝昭	山吹 堯敏	萩原 一之	石井 汎 福岡トキコ	森安 萌 相谷 道男	宮脇 律 大熊 圭祐	(12) 津 山	片山 峰子
国塩 輝昭	萩原 一之	臼井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(13) 岡 山	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	臼井 省三	野上 賢二 横山 定子	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 大熊 圭祐	(14) 玉 野	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	臼井 省三	渡辺 武士 福岡トキコ	森安 萌 瀬戸川 宏	宮脇 律 山吹 堯敏	(15) 倉 敷	守屋千冬子
国塩 輝昭	萩原 一之	山吹 堯敏	渡辺 武士 福岡トキコ	黒住 郁雄 瀬戸川 宏	横野 昭輝 山吹 堯敏	(16) 津 山	守屋千冬子
岸田 崇	萩原 一之	佐伯 誠一	森川 鐵也 福岡トキコ	村田 重臣 白河左江子	西田 譲 服部 亮介	(17) 岡 山	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	藤本 善三	古川 正治 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	西田 譲 服部 亮介	(18) 玉 野	安達 正恵
岸田 崇	松本 正志	竹井 千庫	田代 尚夫 岡本 敏枝	岡島 将 白河左江子	杉山 定雄 服部 亮介	(19) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	門野 茂蔵	田中 修二	長安早智子 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(20) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	波多野研爾	田中 修二	森谷 浩平 藤田 真実	岡島 将 白河左江子	幾田 尚 川原 昇	(21) 岡 山	青江 暉子
広本 勝裕	田中 修二	石井 寛子	森谷 浩平 松浦 順子	岡島 将 坪井 敬也	坪井 克己 八木 和一	(22) 玉 野	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	阪田 俊介	森谷 浩平 岡崎 明宏	大月 要 坪井 敬也	皆木 徹典 若狭 真司	(23) 倉 敷	青江 暉子
広本 勝裕	小山 輝基	後藤 信介	長崎 幡子 島田 保弘	平田嬉世子 岡田 敏雄	皆木 徹典 若狭 真司	(24) 津 山	青江 暉子
広本 勝裕	国富 浩二	畠岡 睦美	瀬戸川 宏 石川真佐代	白神 幸昌 岡田 敏雄 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(25) 岡 山	守屋千冬子
広本 勝裕	田辺 宏海	国富 浩二	瀬戸川 宏 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充	中野 宏 佐守 謙一	(26) 玉 野	守屋千冬子
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	中野 宏 佐守 謙一	(27) 倉 敷	佐藤 菊江
藤井 洋一	田辺 宏海	福尾浩一郎	亀高 嘉彦 石川真佐代	赤木 久見 門田 正充 利守 雅行	大山 晋右 佐守 謙一	(28) 津 山	佐藤 菊江
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 篤	(29) 岡 山	小野 暁子
桑木 一郎	小山 秀樹	三棹 章弘	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 原 清行	鴨頭 脩 森本 篤	(30) 玉 野	小野 暁子
桑木 一郎	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	香川 璋子 利守 雅行 原 清行	川井 章三郎 尾崎 寛子	(31) 倉 敷	小野 暁子 鹿野 恵子
大滝 一登	石井 美鶴	樋口 貴子	菱川 成雄 宮田あけみ	綿谷 佳男 利守 雅行 原 清行	山根 健 細川 直子	(32) 津 山	鹿野 恵子
大滝 一登	有松 幹雄	行藤 潔	料治 育子 原野おどり	綿谷 佳男 利守 雅行 海野 行晴	大嶋 俊宣 三宅 博己	(33) 岡 山	鹿野 恵子 岡村言二郎
大滝 一登	三宅 博己	深見 啓行	料治 育子 高橋おどり	綿谷 佳男 海野 行晴 利守 雅行	大嶋 俊宣 深見 啓行	(34) 玉 野	岡村言二郎
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	(35) 倉 敷	岡村言二郎 宇原 郁世
大滝 一登	山内 邦世	(な し)	坪井由紀子 大亀 光子	綿谷 佳男 利守 雅行 有友 雅人	高槻 健 有本登貴子	研修会(倉敷)	宇原 郁世

西暦	年号	研究種別	全国大会	中国大会	県大会	県大会講師	主要行事など	会 長	副 会 長
2006	18	43号	(35)郡 山					山下 滋 (倉敷青陵)	岡本 利和 (御南中) 竹内 裕子 (可児小)
2007	19	44号		(25)岡 山	(47)岡 山	高畑 勲		永井 裕 (倉敷青陵)	河本 雅明 (建部中) 竹内 裕子 (可児小)
2008	20	45号	(36)熊 本					高木二三男 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2009	21	46号		(26)下 関	(48)鏡 野	今江 祥智		赤木 圭介 (倉敷南)	木多 敏江 (御津中) 東馬 英子 (中山小)
2010	22	47号	(37)静 岡					坂江 誠 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2011	23	48号		(27)広 島	(49)矢 掛	赤木みづ子		岡野 貴司 (倉敷天城)	山本 健五 (御津中) 岸 律子 (御南小)
2012	24	49号	(38)米 子					中桐 哲則 (玉島)	山本 健五 (御津中) 服部由利子 (古都小)
2013	25	50号		(28)浜 田	(50)吉備中央	田澤 雄作		國府島貞司 (玉島)	大川 泰栄 (上道中) 服部由利子 (東郷小)
2014	26	51号	(39)甲 府					藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2015	27	52号		(29)倉 敷	(51)倉 敷	小嶋 光信		藤井 健平 (総社)	大塚 仁 (甲浦小) 藤井 隆 (上道中)
2016	28	53号	(40)神 戸					福田 邦男 (倉敷古城也)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2017	29	54号		(30)米 子	(52)津 山	平田オリザ		福田 邦男 (倉敷古城也)	高田 恵子 (馬屋下小) 門田 正充 (岡輝中)
2018	30	55号	(41)富山高岡					土家 槇夫 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 藤井 隆 (高松中)
2019	1	56号		(31)山 口	(53)岡 山	村中 李衣		高槻 信博 (倉敷青陵)	山本 義人 (千種小) 水畑 法生 (岡北中)
2020	2	57号	(42)高松 誌上開催					鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2021	3	58号		(32)広 島	(54)真庭 誌上開催	湯澤 美紀		鳥越 信行 (倉敷南)	森 淳 (岡南小) 青木 伸晃 (操南中)
2022	4	59号	(43)オンライ ン開催					藤井 省吾 (倉敷天城)	松原 弘 (高島小) 中田 隆宏 (妹尾中)
2023	5	60号		(33)益 田	(55)高梁新見	益井 博史		藤井 省吾 (倉敷天城)	藤原 陽子 (高島小) 川原 悦子 (光南台中)
2024	6	61号	(44)高松					森田 保志 (玉島)	野崎 尚子 (灘崎小) 川原 悦子 (光南台中) 藤井 省吾 (倉敷天城)

県教委担当者	事務局長	事務局次長	小 教 研	中 教 研	高 教 研	県司書大会	県司書部会長
大滝 一登 高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	岡本 利和 利守 雅行 有友 雅人	山下 滋 井上 裕子	(36) 岡 山	景山 美香 坂口 桂藏
高尾 敏也	石本 正樹	(なし)	竹内 裕子 有松 裕子	河本 雅明 利守 雅行 有友 雅人	永井 裕 井上 裕子	研修会 (津山)	坂口 桂藏
高尾 敏也 武田 祥江	志部 雄介	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	高木 二三男 藤田 京子	(37) 倉 敷	坂口 桂藏 池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	永山 整	(なし)	東馬 英子 丸橋 弘子	木多 敏江 有友 雅人 利守 雅行	赤木 圭介 藤田 京子	研修会 (玉野)	池田 桂子
武田 祥江 田中 善美	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	坂工 誠 小野 恭子	(38) 岡 山	池田 桂子 二部野陽子
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 敦子	(なし)	岸 律子 安藤 弘子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	岡野 貴司 小野 恭子	研修会 (岡山)	二部野陽子
乙倉 寛 石本康一郎	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	山本 健五 宗實恵利子 利守 雅行	中桐 哲則 尾崎 寛子	(39) 倉 敷	二部野陽子 米倉 弥生
乙倉 寛 藤本真砂子	佐藤 俊英	(なし)	服部由利子 二宮 典子	大川 泰榮 宗實恵利子 利守 雅行	國府島 貞司 尾崎 寛子	研修会 (津山)	米倉 弥生
辻田 詔子 須藤由美江	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 岡田恵利子 利守 雅行	藤井 健平 柳井 典子	(40) 岡 山	米倉 弥生 原 弘江
森川 悟 新田 治彦	大野 里江子	(なし)	大塚 仁 中村さつき 小川 薫	藤井 隆 永守 志帆 金田 益美	藤井 健平 柳井 典子	研修会 (玉野)	原 弘江
岡本 里香 三宅 健夫	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 永守 志帆 金田 益美	福田 邦男 児島 真理子	(41) 倉 敷	原 弘江 西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	末吉 美加子	(なし)	高田 恵子 山根 和佳子 勝浦 由子	門田 正充 仁科 恵子 佐伯 詩帆	福田 邦男 太田 淳	研修会 (倉敷)	西村 百代
岡本 里香 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	藤井 隆 仁科 恵子 佐伯 詩帆	土家 横夫 大口 千恵子	(42) 岡 山	西村 百代 成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	王尾 宏造	(なし)	山本 義人 太田 淑子 酒本 薫	水畑 法生 笹野 恭代 海野 行晴	高槻 信博 大口 千恵子	研修会 (岡山)	成本 由貴
丹原 知哉 江尻 寛正	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 笹野 恭代 海野 行晴	鳥越 信行 高橋 綾美	(43) 倉 敷	成本 由貴 大橋 昭子
大塚 崇史 後藤 直之	平松 玲子	(なし)	森 淳 早川 夕加里 武田 綾子	青木 伸晃 池田 麻子 湯浅 憲一	鳥越 信行 高橋 綾美	研修会 (津山)	大橋 昭子
大塚 崇史 大賀 俊彦	坂井 昌子	(なし)	松原 弘 古田 彩歌 本間 早紀 副島 佳成子	中田 隆宏 池田 麻子 湯浅 憲一	藤井 省吾 小野 貴子	(44) 岡 山	大橋 昭子 大西 結美
大塚 崇史 田中 雅輝	坂井 昌子	(なし)	藤原 陽子 高角 彩歌 副島 佳成子	川原 悦子 門田 琴音 田中 杏佳	藤井 省吾 小野 貴子	研修会 (玉野)	大西 結美
大塚 崇史 難波 朋美	武部 和範	(なし)	野崎 尚子 藤田 雪絵 黒石 浩史	川原 悦子 門田 琴音 田中 杏佳	藤井 省吾 坂井 昌子	(45) 倉 敷	大西 結美 井上 真紀子

岡山県学校図書館研究集録（第 61 号）

発 行 日 2025 年 3 月 31 日

発 行 所 岡山県学校図書館協議会事務局
〒713-8121
岡山県倉敷市玉島阿賀崎 3-1-1
岡山県立玉島高等学校内
TEL (086)522-2972

発行責任者 岡山県学校図書館協議会会長
森田 保志